

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	水野 修	学校名	東京 都 道・府・県 私立 和洋九段女子中学校高等学校
担当教科等	日本史 B	対象学年（人数）	高校 2 年 A 組（16 名）
実践年月日もしくは期間（時数）	令和 3 年 1 月 ～ 月（ 3 時間）		

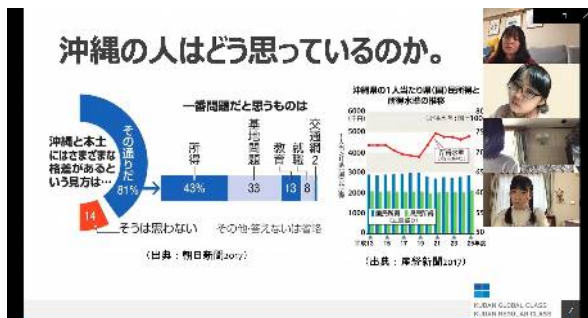
【実践概要】

1. 実践する教科・領域：高校日本史B		
2. 単元(活動)名：琉球・沖縄史		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：琉球・沖縄史から考える ～あなたにとって「日本とは？日本人とは？」～ 単元目標：「世界の中の日本」を考える実践テーマとして「琉球王国の歴史」を取り上げる。先史から近現代に至る沖縄の歴史を概観・理解しつつ、通常の日本史より空間的範囲を押し広げた視座から社会や文化を考える。 関連する学習指導要領上の目標：我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。		
4. 単元の評価 規 準	①知識及び技能	歴史の展開における諸事象の意味や意義を理解し、その知識を身に付けている。歴史資料を含む諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。
	②思考力、判断力、表現力等	歴史事象の推移や変化、相互の因果関係を多面的・多角的に考察し、歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈して、その過程や結果を適切に表現している。
	③学びに向かう力、人間性等	常に主体的取り組み、自分ごととして考えることができ、他者との共同作業の中で他者の意見を受け入れるとともに、自分の意見も主張できる。

5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童／生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 本来は沖縄に修学旅行に行くはずであったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で行くことができなくなった。しかし、自分たちでバーチャル修学旅行を企画するなど、沖縄に関しての理解に積極的に取り組んでいた。しかし、第二次世界大戦中の悲惨な歴史を学んでいたが、それ以外の歴史的な知識が欠落し、意識されていないなど不十分な点があったことを踏まえ、琉球・沖縄史として地域史を学ぶことによって、よりよく他の地域を知ることの意義を学んでもらいたく、この単元の設定に至った。			
	【単元の意義】 琉球・沖縄史について、本来地域史として時代ごとにバラバラに学ぶ範囲であるが、通史で学ぶことにより、琉球・沖縄が本土とは違い独自の歴史と文化があること知ることができる。そこから、同じ日本であっても必ずしも均一化されたものではないこと、それによる差別や偏見があったことを学ぶことにより他者理解の一助になると考える。また、「SDGs」を絡めることにより、日本国内の問題に留まらず、他国との文化的な理解つながることを意識させたい。			
	【児童／生徒観】 本学級の生徒は、積極的な生徒が多い。Globalコースに所属している生徒もおり、英語学習を含め、他国に興味を示す生徒や、発想力に富む生徒も多い。SDGsはもとより、社会貢献活動に従事したいと考えている生徒もいる。			
	【指導観】 世界には国同士の無関心や無理解から戦争や紛争に至る事例が多々あるが、それは他人事ではない。日本においても起こりうる可能性がある。現在、沖縄には基地問題を始め、本土との格差を感じる人の割合が多い。同じ日本でもこのような意識の差があることを知り、他者を積極的に理解する姿勢を持つ生徒の育成を目的とする。			
6. 単元計画 (全 3 時間)				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	原始から近世までの琉球史の流れ (琉球王国の繁栄)	今まで、時代ごとにバラバラに学んでいた地域史としての琉球史を統合することにより、どのような歴史を歩んできたのかを理解させる。	ZOOM を利用したオンライン授業である ・Google の Jamboard や ZOOM のブレイクアウトセッションにより適宜、意見表明の機会を作る。 ・PowerPoint を利用したスライドを使い、視覚に訴えつつ、歴史の流れをイメージさせる。 ・琉球文化を紹介するだけでなく、三線の音色を実際に聞くことを通して、日本本土とは違う歴史をたどっていることを意識させる。	・『新詳日本史 B』山川出版社 ・『新詳日本史』浜島書店 (資料集) ・琉球・沖縄史授業プリント (自作) ・授業用 PowerPoint
2 本時	近現代の琉球・沖縄史の流れと移民について考える	戦前の近代史を学ぶことにより、本土との制度や経済的な差を理解しつつ、世界各地に沖縄の人が移住したことの意味や背景について理解させる。	ZOOM を利用したオンライン授業である ① 今回の授業のキーワードを意識させる ② 前時の授業の振り返りから、今回の授業の流れを意識させる。 ③ 「問い」からのブレイクアウトセッション 4人1組で、自分の考えを述べ合う。 ④ 沖縄の県民意識調査の結果の共有 ⑤ 近代史の講義と移民についての理解と共有 ⑥ 神奈川県横浜市鶴見区の事例を挙げ、沖縄・南米・日本との関係を考える ⑦ 動画「HOME」から世界と日本と地域について考えさせる ⑧ 次の時間までの宿題の提示 ・ユネスコ憲章の前文を読んでくる	・『新詳日本史 B』山川出版社 ・『新詳日本史』浜島書店 (資料集) ・琉球・沖縄史授業プリント (自作) ・海外移住資料館の資料 ・鶴見区のデータ ・県民意識調査 ・沖縄タイムス ・朝日新聞 ・産経新聞 ・授業用 PowerPoint



- ④ 沖縄の県民意識調査の結果を共有する
- 沖縄の人は本土についてどう思っているのかを各新聞社が調べたデータを利用して共有する



- ⑤ 明治以降の沖縄史についての講義
- 琉球王国から琉球藩、沖縄県へ変化
謝花昇らの自由民権運動が起こった理由
本土以上の不況と移民との関係性を考える
沖縄戦の悲劇について、事前学習を振り返る
※チャットを利用して、事前学習で学んだことやその時の感情を聞く



- ⑥ 戦後の沖縄の流れ
- 本土が主権回復後もアメリカ政府の間接統治が続くこと。また、高度経済成長期の本土に対して、沖縄は経済的に後れを取っていたことを理解する

を意識させる。

・できるだけ淡々と
事実だけ述べる

・本土との違いを政治・経済・社会の各方面から説明する
事前学習で通じた学びによって得た感情を率直に出す声掛けをする

・沖縄県公文書館のHPを見せながら、沖縄と移民についての説明を、本土との違いを意識させる

- ④ 県民意識調査を利用
沖縄タイムス（2017）
朝日新聞（2017）
産経新聞（2017）

- ⑤ 琉球・沖縄史のプリントの右側を進める
海外移住資料館資料
笠戸丸移民

- ⑥ 沖縄県公文書館HPを引用

あの日の沖縄

1945年（昭和20）の米軍上陸以降、沖縄では広大な土地が軍用地として接収され、農地や宅地を失った住民の生活は困難をきわめました。加えて急激な人口増加がさまざまな問題をもたらし、沖縄群島政府は「沖縄の経済的自立の基盤は過剰人口の対策がその基盤となる」との認識から、海民を推進する方針を固めました。



沖縄戦外史資料館HPより

- ⑦ 鶴見のお店の写真を見て気が付くことは
生徒にチャットで気が付いたことを入力

神奈川県横浜市鶴見区にあるお店



- ⑧ 鶴見区の事情

沖縄出身の人が多いこと。ブラジル人が多い歴史的な背景を知り、その支援が行われていること。また、それにより自分のルーツやアイデンティティに悩む人がいることを理解する。



(33分)

まとめ

- ⑨ 日本はすでに多文化社会

現在、日本は OECD の中で4番目に移民が多い国であることから、相手のルーツを理解し、アイデンティティを尊重することが必要になってきている
その上で、日本の歴史をなぜ学ぶのか。そして、今日学んだことを踏まえて

(5分)

・なぜ、一軒のお店の
なのに沖縄とラテン
料理を出すのかを意
識させる

・特に「沖縄へのル
ーツを探る旅」につ
いて言及し、アイデ
ンティティとは何
か？を考えさせる

・鶴見区の事例は、
私たちにとっても身
近になりつつあるこ
とを意識させる
・SDGs との関連につ
いて説明をする

- ⑦ EL BOSQUE の写
真を利用

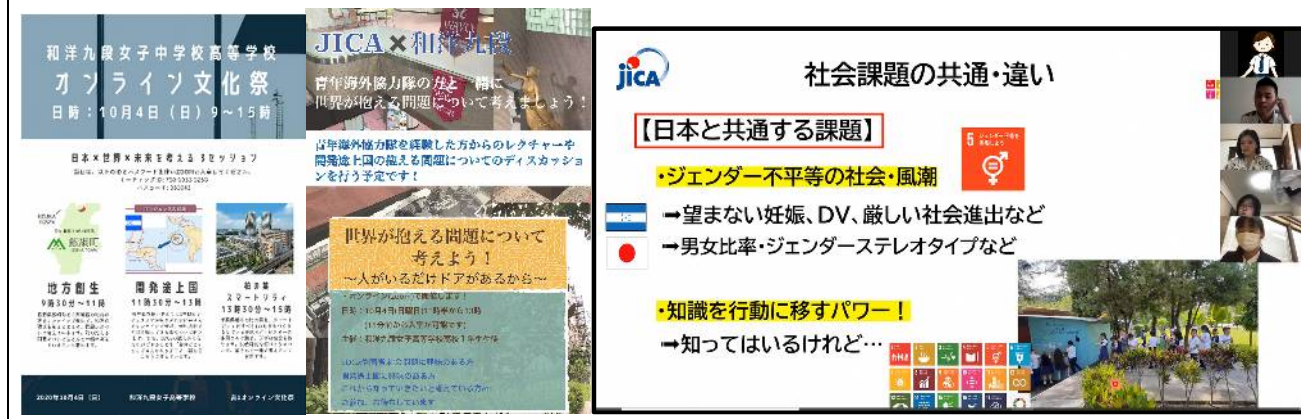
- ⑧ 横浜市鶴見区の資
料を利用

 多文化共生の進む日本 日本は世界で第4位 【主な国への移民の数】 (2019年1月1日現在、単位:千人) <table><tr><td>1</td><td>ドイツ</td><td>1,365,500</td></tr><tr><td>2</td><td>中国</td><td>1,294,000</td></tr><tr><td>3</td><td>スペイン</td><td>552,558</td></tr><tr><td>4</td><td>日本</td><td>519,683</td></tr><tr><td>5</td><td>韓国</td><td>495,070</td></tr><tr><td>6</td><td>米国</td><td>458,480</td></tr><tr><td>7</td><td>フランス</td><td>456,600</td></tr><tr><td>8</td><td>ギリ</td><td>335,350</td></tr><tr><td>9</td><td>カナダ</td><td>321,045</td></tr><tr><td>10</td><td>イタリア</td><td>299,540</td></tr></table> 出典: 朝日新聞CLOBE+より ⑩ 宿題の提示 あなたにとって「日本とは？また、日本人とは？」という問いに答えてもらう 	1	ドイツ	1,365,500	2	中国	1,294,000	3	スペイン	552,558	4	日本	519,683	5	韓国	495,070	6	米国	458,480	7	フランス	456,600	8	ギリ	335,350	9	カナダ	321,045	10	イタリア	299,540	・動画「HOME」を見せながら地域と世界の問題がつながることの説明をする	⑩ UNESCO 憲章前文 動画「HOME」
1	ドイツ	1,365,500																														
2	中国	1,294,000																														
3	スペイン	552,558																														
4	日本	519,683																														
5	韓国	495,070																														
6	米国	458,480																														
7	フランス	456,600																														
8	ギリ	335,350																														
9	カナダ	321,045																														
10	イタリア	299,540																														
8. 評価規準に基づく本時の評価方法 1. 問いかけに対しチャットで反応することができる。 ⇒後日、入力したチャットの内容を踏まえて振り返りをおこなう。 2. ブレイクアウトルームにおいて自分の意見を相手に伝えることができる。 ⇒短い時間の中で、前時の授業内容も踏まえ、自分の考えを整理しまとめることができるか。 3. ブレイクアウトルームにおいて相手の意見に共感し、自分の意見を補足・修正することができる。 ⇒自分の意見を押し通すだけでなく、相手の意見を受け入れ、自分の意見を補強することができるか。 4. 後日配布する振り返りシートに漏れなく、記述することができているか。 ⇒自分自身の考えを文章により表現することができるか。																																
9. 学習方法及び外部との連携 ・学習者同士がオンライン上でのブレイクアウトルームにおいて、自分の意見が述べられるようにするために、日頃の授業方法から意識する。 1. 日頃の授業から、話し合いが活発になる「問い」を作ることを心掛け、練習をしておく ⇒ 日頃の授業から、学習者同士が意見を言える機会を多く準備しておく。 2. ファシリテーター役を決める方法を作っておく 3. 発表が終わったときに拍手をする癖をつける（学習者同士が、快く発表ができる場づくり） 当たり前ですが、日頃から意識し、常日頃から行っておくことがオンラインになっても生きてくる。																																

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

【校内】

・オンライン上で行った文化祭において、JICA 東京より佐谷孝行様をお招きして、ホンジュラスでの国際協力と問題点などを講演して頂いた。加えて、国際理解について生徒とディスカッションをして頂いた。



【自己評価】

11. 苦労した点	オンラインでの研究授業であったため、事前に紙ベースの資料を渡すことができなく、すべてオンライン上で行った点。また、授業時に PowerPoint の画面を共有してしまうと、生徒の反応が分からなかった点。本来使用するはずだった、Jamboard が機能しなかったこと。
12. 改善点	【オンライン】 最後に振り返りを入れることができるように、5分程度の時間を確保できる時間配分を考えておく。 【対面授業】 オンラインを意識したスライドになっているので、板書計画を作る必要がある。また、付箋を使い自分の考えをどんどん貼らせていくワークを入れると、その後の意見交換において効果的である。
13. 成果が出た点	沖縄県を日本の一つの地方という捉え方だけでなく、沖縄を独自の歴史や文化を持ち、東アジアの地域史にとって重要な立場であったことを意識させることができた。また、沖縄の独自の歴史や文化を学ぶことによって、日本・日本人という定義はあくまでも便宜的であり、相互理解が重要な点について学習者自身の気付きを引き出すことができた。そこから、移住・移民に対する理解と、現在の日本の抱え問題の一つ、多文化共生について様々な角度から考える機会になった。
14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	ワークシートの振り返りより

2. 問い：あなたは、沖縄を日本だと思えますか？



a. あなたの意見

沖縄は形式上、日本の一部となっているが、独自の文化が今に残っており、自分としてはあり、日本だとは思わない。
パスポートなしで行ける外国！

b. 友達の意見

日本だと思わない、独自の文化、沖縄の方言
日本人の血だけではないものが流れている
日本だと思ふ、日本語を話す
日本の一部

c. データを見てあなたが気付いたこと、考えたこと、学んだこと。

沖縄の人は日本に復帰は良かったと多くの人が感じている
反面、本土との格差があると感じている人がとても多い。
格差問題はよく話題になるが、所得にこんなにも差があると
思ってもみなかった。

2. 問い：あなたは、沖縄を日本だと思えますか？



a. あなたの意見

思いません。琉球語があるが、日本語を話しているからです。
また、外国人に日本で行きたい場所を聞くと、沖縄と言ったり、
日本に来たいがあるが聞くと沖縄と言ってくるので主観的にも客観的にも
沖縄は日本だとは思いません。

b. 友達の意見

思わない。文化や行事、慣習が異なるから。
パスポートなしで行ける外国のような感覚。
顔つきが日本人よりも濃いめで、沖縄特有の
ものが多いから。

c. データを見てあなたが気付いたこと、考えたこと、学んだこと。

日本に復帰してよかったと思っている人が多いが、その割合と
同じくらいの人本土との格差を感じている。本土の人と
沖縄の人の格差が違つて物の見方も大きく異なるということを感じた。

6. 問い：あなたにとって「日本とは？また、日本人とは？」

a. 問いに対してのあなたなりの定義

沖縄が独自の文化を持っているが、日本各地にはその土地
独自の文化があるので、日本人とはひとくくりにしてはくれない。
また、いないと思う。日本はありふれた国に国定されてある。

b. 問いに対してのあなたの答え

新しいもの好きなので、生きやすい国だと思う。
日本人というくくりはいいない
日本、若者のしやすい国

c. 今回の授業を通して、この問いで振り返ってみて気付いたこと、考えたこと、学んだこと。

人によって出身や人種やグループ分けするときの手段に違いを
感じた。また、自分にとっての当たり前が、他人にとっての
当たり前かどうかは分からないという点、が分かると同時に、このことを
理解していないと誤解が生ずるためであると思った。

7. 今回の授業を通して考えてみよう！

a. これまで記述した「気付いたこと、学んだこと」から一つ選び、その文章の守護を

7. 今回の授業を通して考えてみよう！

a. これまで記述した「気付いたこと、学んだこと」から一つ選び、その文章の守護を
「(一般的な)人」⇒「私(自分自身)」と変化させて自らの教訓にしてみよう！

・気付いたこと、学んだこと

「人」の定義が難しかったこと、共有する世界が望めず、
実現される重要性があるということ。

⇒「(一般的な)人」を主語にすると...

我々は、様々な人種の人やルーツを持って人の中で、
たいてい「日本人」というのではなく、お互いを理解し
共有せねばならない。

⇒「私」を主語にして自分自身の教訓にすると...

私はどんなルーツを持って人でも、今まで持っていた「日本人」
という観点を捨て、より大きな視点で人々と共有せねば
ならない。

15. 授業者による 自由記述	最初に新型コロナウイルス感染拡大の影響で、海外への派遣が中止になったにも関わらず、国内での実施を模索し、実施していただいた JICA 東京の関係者の方々に感謝申しあげます。私にとって、この教師海外研修は、多くの先生方と意見を交わす貴重な機会となりました。特に、普段話をする機会のない小学校や特別支援の先生方との学びは、物事を様々な角度から捉えるきっかけとなりました。また、中高の先生方とは教科科目を越え、どのような目線で生徒と向き合うのかの実践的な視点をいただきました。佐藤先生からは「公平」「公正」その先の視点、視座を高くすることを学び、フィールドワークの中で実践することにより、今まで見えなかったことまで見るができるようになりました。今回の研究授業の題材は、私が日本史を生徒と一緒に学ぶ良い機会となりました。研修に参加して、他の教員仲間と語り合うことにより、日頃からモヤモヤしていた何かが見えた気がします。それが、「日本とは？日本人とは？」という私なりの「問い」です。日頃何となく使っている、「日本人」という言葉は本当に使い方が合っているのか？また、「日本」や「日本人」という括りはどこまでなのかという疑問を、「沖縄」という存在にヒントを得た気がします。すでに OECD の中で 4 番目の移民大国日本は、多文化共生に向けた動きを加速させる必要があります。それには、多くの気づきが必要だと思います。特にこれからの世代である生徒の視座を高くするためには、教員である私たちの視座を高めなくては到底できることではないと思います。この教師海外研修というプログラムは、さまざまな刺激を私たちに与えてもらうだけでなく、視座を高めるきっかけになります。参加を悩まれている先生方におかれましては、生意気ではありますが勇気を持って、ちょっと学校の外に出てみてください。きっと素敵な出会いや視野の広がりを体験することになるでしょう。
----------------------------	---

参考資料：

- ・『新詳 日本史 B』(山川出版社)
- ・『新詳 日本史』資料集(浜島書店)
- ・鶴見区多文化共生推進アクションプラン 改訂版 平成 23～26 年度：鶴見区役所(平成 23 年 4 月)
- ・外国人住民調査書-改訂版-：公益財団法人 人権教育啓発推進センター(平成 29 年 6 月)
- ・UNESCO 憲章前文：<https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000125590.nameddest=constitution>
- ・日本に復帰してよかった？(沖縄タイムス HP より)：
<https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/97097>
- ・「本土と格差」沖縄県民調査(朝日新聞 HP より)：
<https://www.asahi.com/articles/ASK5C05N3K5BTPOB003.html>
- ・琉球新報(2020 年 6 月 23 日の記事より)：
<https://viewer.ryukyushimpo.jp/books/viewer/app/P000003970/2020/06/23>
- ・沖縄県公文書館(琉球政府計画移民)HP より：
https://www.archives.pref.okinawa.jp/news/that_day/5804
- ・朝日新聞 GLOBE+ (主な国への移民の数)HP より：<https://globe.asahi.com/article/13996571>
- ・神奈川県横浜市鶴見区資料より(多文化共生のまち、外国人住民)
https://www.city.yokohama.lg.jp/tsurumi/kusei/tokei/20170923165819.files/0032_20181030.pdf

- ・海外移住資料館（ブラジルへの日本人移住、海外移住とは何か）
<https://www.jica.go.jp/jomm/outline/list.html>
- ・動画「HOME」：<https://www.youtube.com/watch?v=8eJD0BuNN1Y>
- ・ABC ジャパン PowerPoint 資料より

ブラジルへの日本人移住

日本人のブラジルへの集団移住は、1908年の笠戸丸によって始まります。初期の移住は、サンパウロ州コーヒー農場への雇用契約移民でした。しかし、不作や不慣れな労働、低賃金などが原因で、契約満了以前に脱耕する者が多く出ました。

1924年以降、移住者の大量送り出し時代が始まるとともに、日本政府が船賃や移民会社手数料を支給するなど、国策としての移住が推し進められました。1933年、34年には最盛期を迎え、両年ともに2万人を超える移住者を記録します。

戦後は1952年に移住が再開され、アマゾン地域及びマット・グロッソ州へと移住者が渡りました。1960年には日伯移住協定が調印され、この年には7千人を超える移住者がありましたが、日本経済の発展に伴い1964年には1千人を下回りました。その後も移住者の数は減り続け、日本政府も移住者送出事業を1993年に事実上終了しました。

このように日本人のブラジルへの移住者数は、戦前には約18万9千人、戦後には約6万8千人にのぼります。現在ブラジルの日系人口は約140万人と推定されています。



サントス港での下船風景

笠戸丸移民

移民船笠戸丸は 1908 (明治 41) 年 4 月 28 日神戸港を出航し、6 月 18 日サントス港に到着しました。笠戸丸にはブラジルへの第 1 回集団渡航移民 781 人が乗船していました。笠戸丸移民は、ブラジルへの日本移民創始者とされる水野龍^{りょう}を代表とする皇国殖民会社と、サンパウロ州政府との契約により、コーヒー耕地における就労を目的としていました。

この第 1 回移民の到着を報じた地元の新聞『コレイオ・パウリスターノ』(当時)は、6 月 25 日付け第 1 面の記事で、日本移民に対して好感を示して「清潔で規律正しい移民」と称賛していました。笠戸丸の名はそれ以降、100 年に及ぶ日本とブラジルのつながりを象徴する名称となっています。



笠戸丸



水野龍(最前列中央)を囲んだクリチバの日本人会
1936 年頃



日本移民の到着を報じた
コレイオ・パウリスターノ紙
(ブラジル日本移民史料館提供)

コーヒー栽培

日本人移民は当初、契約によりコーヒー農場でコロノ（雇用契約労働者）として就労しました。サンパウロ市から州北部・北西部および西部に向けて建設されていた鉄道、モジアナ線、パウリスタ線、アララクアラ線に沿って位置する広大なコーヒー栽培地域を配耕先としていました。2年または3年の契約期間終了後、農場に留まることを選択した移民はごくわずかで、自作農への道を歩むか、都市部や都市近郊における独立事業を選択しました。



日本人移民分布図
『伯刺西爾年鑑』1933年 伯刺西爾時報社



コーヒー農場の風景

移住地での生活

移住先のコーヒー農場での生活には、時として日本では想像もし得ない体験が待っていました。例えば、日本人の生活に欠くことのできない風呂です。当初は、石油缶でお湯を沸かし、大きなたらいで行水することで満足しなければなりませんでした。しかし、ドラム缶が手に入るようになると、五右衛門風呂のようにして入りました。もちろん簡単な囲いだけの露天風呂でしたが、燃料のたきぎはいくらでもあったので、水の便さえよければ毎晩でもたてることができました。



日本から持参したドラム缶（レプリカ）

また、収穫を待つ身に降りかかる天災もありました。霜害と蝗害^{こうがい}（バッタの大量発生による災害）です。バッタの大群による襲来は、突如として黒雲が現われたかのように空が曇り、次の瞬間には大きなバッタが頭上から降り注いでくるもので、作物という作物が食い尽くされてしまいました。



バッタの大群と戦った火炎放射機

Brasil

ブラジル農業に果たした役割

日本人移住者は集団地を形成し、自らの生産活動を守るために農業協同組合を組織しました。そして、篤農精神に基づき、在来種を改良しあるいは新品種を導入して、ブラジル農業を豊かなものにしていきました。

また、都市近郊に入った農業者は、主として蔬菜栽培に携わりました。それまでブラジルでは、トマトやキャベツなど限られた種類の、それも低品質のものしか生産されていませんでしたが、日本人移住者が品種改良を行い、生鮮野菜の普及に努めました。ジャガイモに始まり、様々な蔬菜を次々と取り入れた日系農家は、養鶏や果樹栽培にも手を広げ、近郊における集約的な園芸農業を確立していきました。



馬鈴薯栽培



日系人が設立したコチア産業組合の働き蜂マーク
(ブラジル日本移民史料館提供)

Brasil

戦後移住

戦後におけるブラジルへの移住再開は、ブラジル在住の2人の民間日系人が大きな役割を果たしました。パラ州サンタレンの辻小太郎とサンパウロ州マリリアの松原安太郎です。辻は北部ブラジルへ五千家族、松原は中西部へ四千家族の導入計画を、当時のヴァルガス大統領に対して直接交渉し許可を得ました。「辻移民」第一陣 17 家族 54 名は 1953 年 2 月 11 日にリオ・デ・ジャネイロへ、「松原移民」第一陣 22 家族 112 名は同年 7 月 7 日にサントスへ、それぞれ到着し戦後移住が開始されました。



辻移民契約書の表紙



松原安太郎（左）とヴァルガス大統領（中央）
（ブラジル日本移民史料館提供）

Brasil

日系社会の行事

今日、日系人の多いサンパウロ州やパラナ州の各地では、お釈迦様の生誕を祝う花祭りや、日本の国花桜にちなんだ桜祭りなどが行われるほか、モジ・ダス・クルーゼスの柿祭り、バストスの卵祭りなど、日系集団移住地では収穫祭も行われます。このほか、サンパウロでは、開拓先亡者慰霊のための移民祭や、七夕祭り、日本文化を広く紹介する日本祭などがよく知られています。さらには、多民族国家を象徴するイベントとして、サンパウロの国際民族舞踏祭やクリチバのパラナ民族芸能祭といった移民文化を紹介する芸能祭も、日系社会においてその文化伝承に重要な役割を果たしています。



パラナ民族芸能祭で日本の踊りを披露する日系二世たち
1964年



日本祭の長野県ブース前で披露される餅つき



サンパウロで行われる七夕祭り

Brasil

日本語学校

戦前においては、入植地におけるコミュニティの中心として日本語学校が建設され、祖国文化を維持するための子弟教育が行われていました。多くの地域で日本人会が学校を設立し、州政府に対して教育施設として提供する一方、州政府はポルトガル語などを教える教師を派遣しました。そして、日本人会でも日本語を教える教師を雇用しました。

しかし、第二次大戦勃発を端緒として、日本語学校はすべて閉鎖に追い込まれました。戦後は、1950年代に入^にって日本語学校連合会が発足し、家庭における意思の疎通、日本文化や、勤勉・誠実・正直といった長所の継承を目的として日本語学校が再出発しました。その後、グローバル化や世代交代の流れの中で、継承語としての日本語教育とともに、外国語としての日本語教育も行われています。



大正小学校 サンパウロ 1932年
(ブラジル日本移民史料館提供)



入植地における学校 地名・年代不明

*現地では、日本語学校よりも日語学校という表現が一般的に使われています。

ブラジル日本文化福祉協会と ブラジル日本移民史料館

戦後、1950年代の半ばになって、ブラジル全土の日系人団体を統括する機関が生まれました。サンパウロ市創立400年祭をきっかけとして、日本人協力会組織をもとに発足したサンパウロ日本文化協会です。その後、この団体はブラジル日本文化協会、さらにブラジル日本文化福祉協会と改称し、今日までブラジルにおける日系人を代表する団体として様々な活動を維持してきています。

そして、1978年には、ブラジル日本移民70周年記念事業の一環として、同協会ビル内にブラジル日本移民史料館が設立されました。この史料館は、ブラジルに渡った外国移民の歴史や生活を紹介する施設として屈指のもので、日本人移民の歴史と生活が分かりやすく展示されています。



ブラジル日本文化福祉協会ビル
(ブラジル日本移民史料館提供)



ブラジル日本移民史料館の入口
(ブラジル日本移民史料館提供)

Brasil

在日日系ブラジル人社会

1980年代後半から始まった、ラテンアメリカ日系人による日本での就労を目的とした来日、いわゆるデカセギ現象は、すでに20年の歳月を経ています。今日では、日系ブラジル人全体の約20%にあたる約30万人が日本に滞在しており、そのうちの20%に相当する約6万人がすでに永住権を得て、定住化への傾向も進みつつあります。人口の15%をブラジル人が占める群馬県の大泉町、2万人のブラジル人が集住する静岡県浜松市、大都市圏の多文化地域での共生を模索している横浜市など、現在では47都道府県のすべてに日系ブラジル人は在住しており、今後、在日日系人コミュニティは多様な展開が予想されます。



横浜市に日系人が設立したNPO法人事務所



群馬県大泉町のブラジリアンプラザ



静岡県浜松市のブラジル人経営雑貨店



琉球・沖縄史の振り返り

A組____番 氏名：_____

1. 琉球史の振り返り（各時代のポイントをまとめる）

a. 原始・古代をまとめる

.....

.....

b. 中世をまとめる

.....

.....

c. 近世をまとめる

.....

.....

d. 近現代（戦前）をまとめる

.....

.....

e. 近現代（戦後）をまとめる

.....

.....

2. 問い：あなたは、沖縄を日本だと思いますか？



a. あなたの意見

.....

.....

.....

b. 友達の意見

.....

.....

.....

c. データを見てあなたが気付いたこと、考えたこと。学んだこと。

.....

.....

.....



3. 沖縄の住民、移民の理由

a.戦前

b.戦後

4. 横浜市・鶴見区の事例から移民と多文化共生について考える

a.データなどを見てまとめる

b.あなたが気付いたこと、考えたこと。学んだこと。(ABC ジャパン、IAPE も参考に)

c.なぜ「沖縄ヘルーツを探る旅」を行うのでしょうか？理由とあなたの意見を！

5. 2つの資料について

a.UNESCO 憲章の前文を読んで内容をまとめる。

b.「HOME」を見ての気付いたこと、考えたこと。学んだこと。

6. 問い：あなたにとって「日本とは？また、日本人とは？」

a.問いに対してのあなたなりの定義

.....

.....

.....

b.問いに対してのあなたの答え

.....

.....

.....

c.今回の授業を通して、この問いで振り返ってみて気付いたこと、考えたこと。学んだこと。

.....

.....

.....

7. 今回の授業を通して考えてみよう！

a.これまで記述した「気付いたこと、学んだこと」から一つ選び、その文章の主語を「(一般的な)人」⇒「私(自分自身)」と変化させて自らの教訓にしてみよう！

• 気付いたこと、学んだこと

.....

.....

.....

⇒「(一般的な)人」を主語にすると…

.....

.....

.....

⇒「私」を主語にして自分自身の教訓にすると…

.....

.....

.....

b.その「教訓」は、あなた自身の実生活でどのように活用できるだろうか。

〇〇（場面・状況）で、△△（起こりうる事態）の時には、□□（考えられる具体的な行動）をしよう

…などというように書いてみよう。思いつく状況をいくつでも挙げてみよう。



Empty rectangular box for writing.

Empty rectangular box for writing.

Empty rectangular box for writing.

Empty rectangular box for writing.

bはすべて埋めなくても良いです。

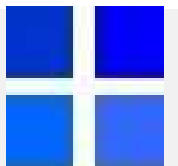
以上になります。みなさん本当によく取り組むことができたと思います。



日本史B 琉球・沖縄史①

琉球王国の繁栄

原始～近世（紀元前～18世紀ころ）



沖縄のイメージは？ Jamboardに！

付箋をつくれます



琉球史 (原始)

新 生 代	第3紀		旧 石 器	猿人	人骨などの多くは石灰岩地帯(沖縄に多い)で見されている。石灰分は土質がアルカリ性で骨が残りやすく、化石になりやすいため。
	第4紀	更新世		原人 旧人? 新人 ：山下町洞人 (沖縄3.2万年前) 港川人 (沖縄・1.8万年前) 浜北人 (静岡・1.4万年前)	
		完新世		新石器	
港川人骨 (1970発見)			沖縄県。男女9体が出土。保存状態が良く、ほぼ完全な全身骨格。		
浜北人骨 (1960発見)			静岡県。若い女性の頭骨片などが出土。		



原始・古代

縄文文化

弥生文化

貝塚文化



なぜ、南西諸島に弥生文化が及ばなかったか？（B2）

南島先史時代の文化圏



グスク時代（12～15世紀）を考える

なぜ、按司が出現したのか？（B2）

農耕社会の形成と按司の登場

貝や魚をとって暮らしていた時代から、農業中心の暮らしへと移っていった時代のことをグスク時代といいます。

グスク時代になると、人々は生活の場を台地の上に移し、集落には村の守護神を祀った聖域を構え、稲作と麦・粟を主とした畑作に、牛の飼育を加えた複合農耕を営むようになります。食料を蓄えることも可能になり、人口が急速に増えていきました。

各地には、按司（あじ）と呼ばれる指導者が登場。13世紀になると富と権力を手にした有力な按司が、砦としてのグスクを築き、武力を背景にそれぞれの地域を支配するようになりました。



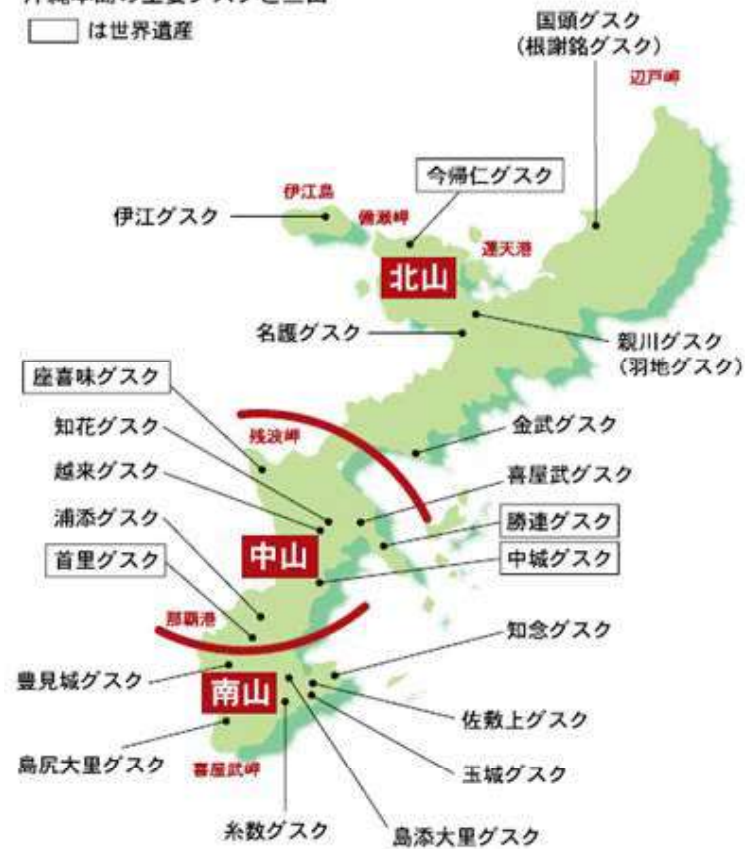
1200年前後に築城されたと伝わる勝連城跡



中世（三山時代）

沖縄本島の主要グスクと三山

□ は世界遺産



中世（琉球王国の成立）

琉球王国（1429～1879）

- ・ 尚巴志が三山を統一して成立

王府：首里城

外港：那覇

※明に朝貢して王と認められる



なぜ、明（中国）に朝貢したのか？（B1）

琉球王国（1429～1879）

- ・ 尚巴志が三山を統一して成立

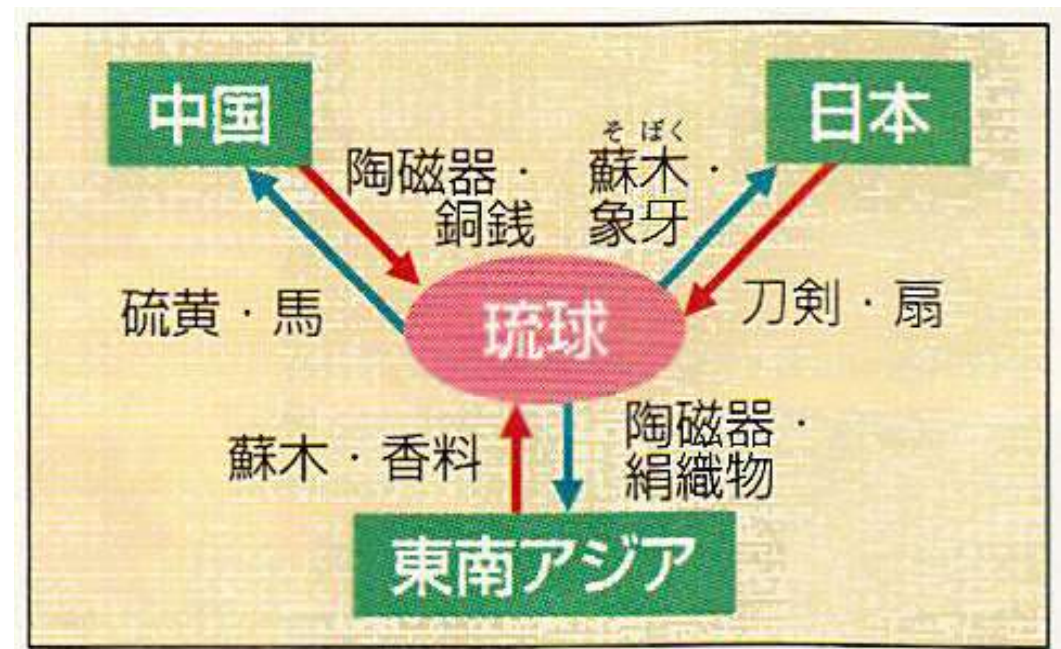
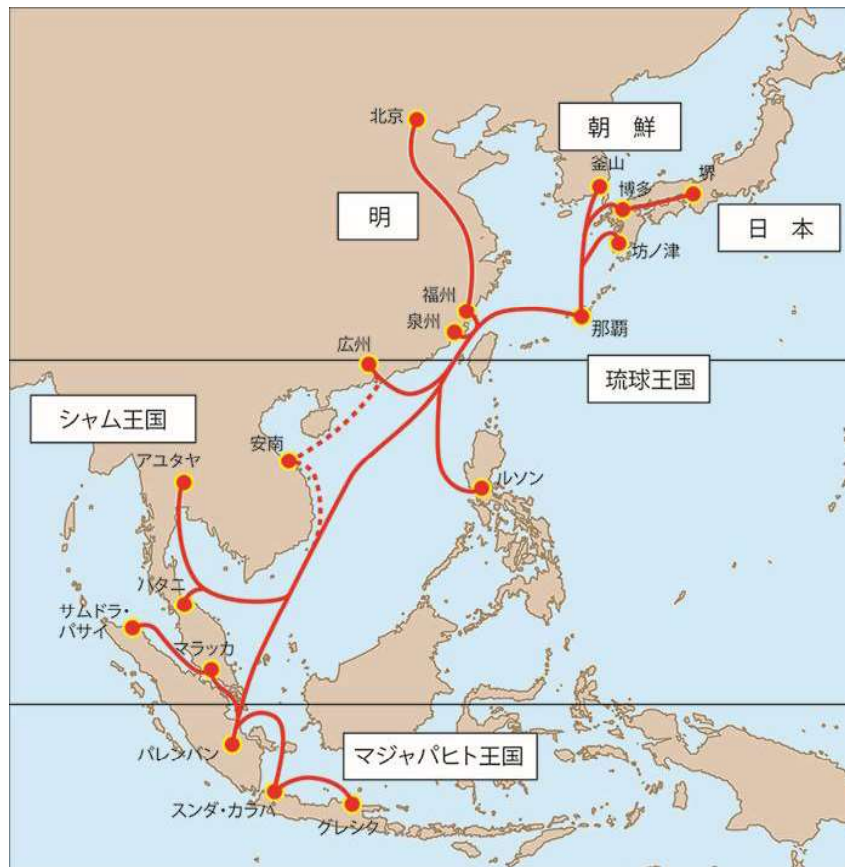
王府：首里城

外港：那覇

※明に朝貢して王と認められる



中世（琉球王国の繁栄：15～16世紀）



琉球王国の中継貿易が成立した理由

- ① 周辺諸国が鎖国政策をとっていた
- ② 倭寇の影響のない安全な港をもっていた
- ③ 周辺諸国との友好関係を維持していた



(万国津梁の鐘 出典:[Wikipedia](https://www.wikipedia.org/))



万国津梁の鐘が意味するものとは？（B2）



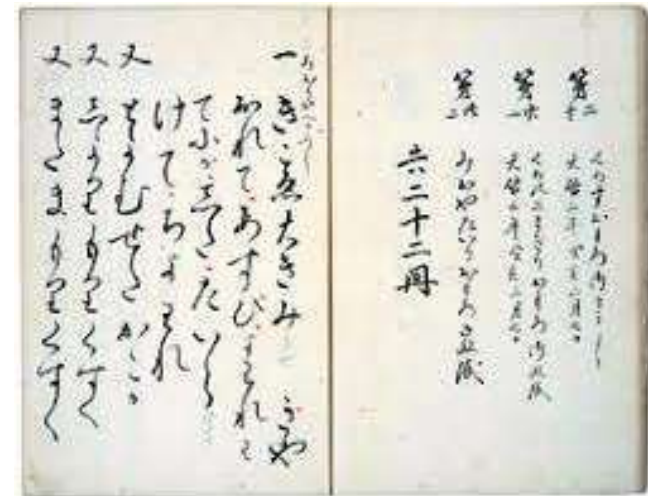
（万国津梁の鐘 出典：[Wikipedia](https://www.wikipedia.org/)）



KUDAN GLOBAL CLASS
KUDAN REGULAR CLASS

琉球王国の文化

- 「おもろそうし」 (1531～1623に完成)
おもろ：琉球の神に捧げる歌
琉球最古の歌謡集



琉球王国の文化

- ・ 三線



琉球王国の文化

- ・ 琉球語（ウチナーグチ）



近世（ポルトガル人の進出）



近世（島津氏の侵攻：1609）

薩摩藩の島津家久が琉球王国に侵攻
→ 尚寧を捕らえる

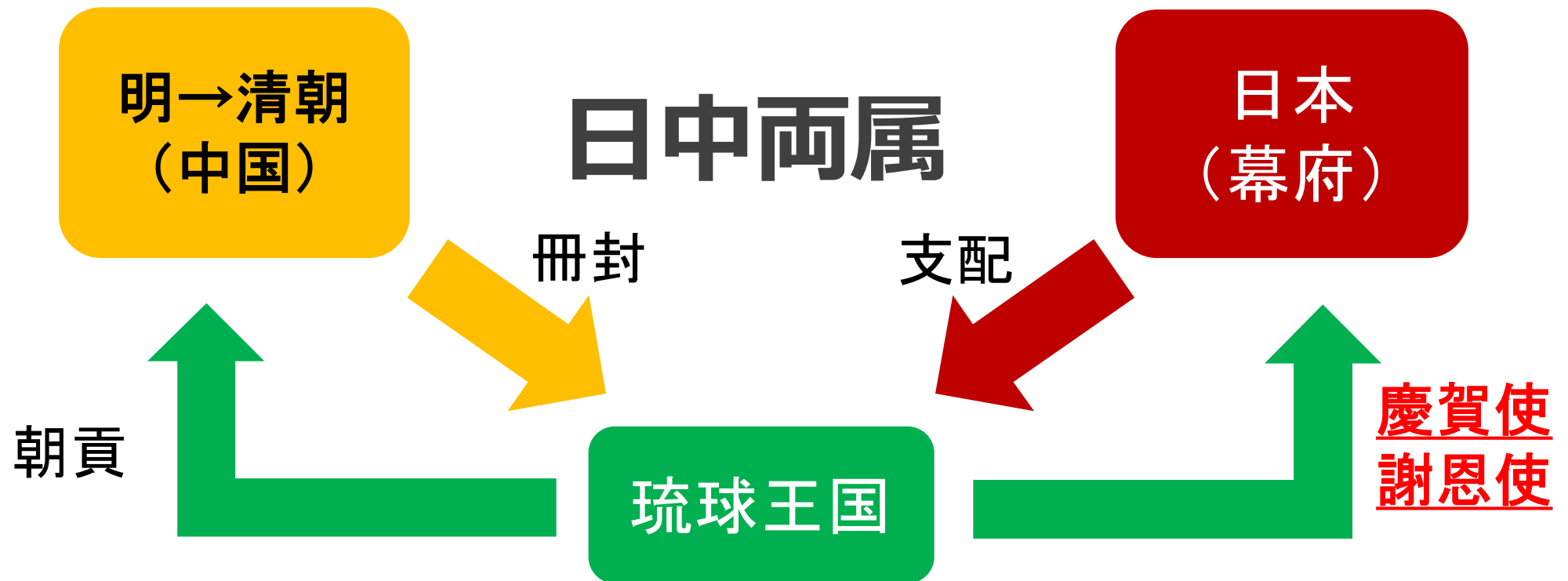
明→清朝
(中国)

日本
(幕府)

琉球王国



幕府が琉球王国を存続させた理由は？（B2）

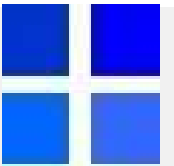




日本史B 琉球・沖縄史②

沖縄と本土との関係と移民について考える

近現代（1870年～現代）



この授業で頭に置いておいてもらいたいキーワード

- ・ルーツ
- ・アイデンティティー



前回の復習もかねて琉球史の振り返り

日本	3世紀～ 11世紀	12世紀	13世紀～16世紀	17世紀	19世紀～20世紀		
	縄文時代 弥生時代	平安時代 鎌倉時代	南北朝時代 室町時代 戦国時代 安土桃山時代	江戸時代	明治時代	大正時代	昭和時代
西暦	▼1429年 ▼1470年 ▼1609年 ▼1879年 ▼1941年 ▼1945年 ▼1972年						
沖縄	新石器・貝塚時代	グスク時代 三山時代	第一尚氏王朝	第二尚氏王朝（前期） 島津侵入	第二尚氏王朝（後期） 琉球処分	沖縄県 第二次世界大戦 沖縄戦・終戦	アメリカ統治時代 日本復帰
	琉球王朝時代（450年）						
	先史時代	古琉球		近世琉球	近代沖縄		現代沖縄



あなたは、沖縄を日本だと思いますか？



あなたは沖縄を日本だと思いますか？

流れ

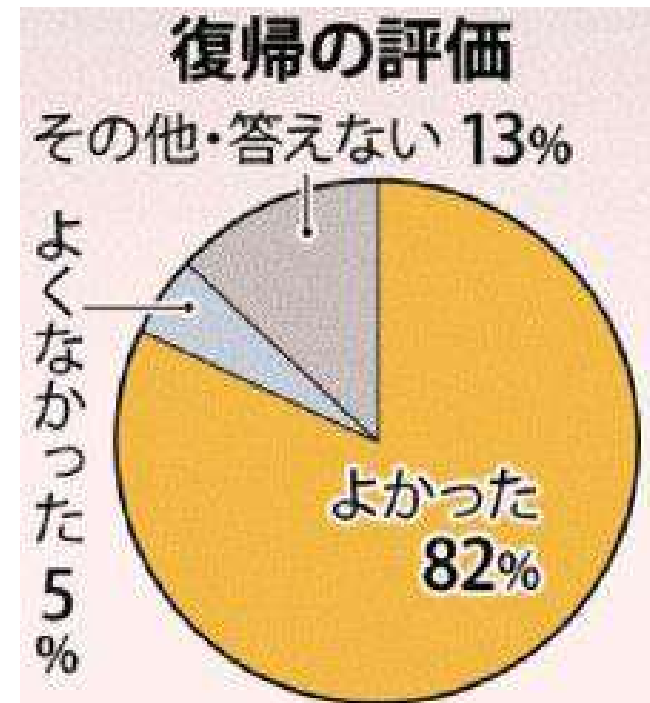
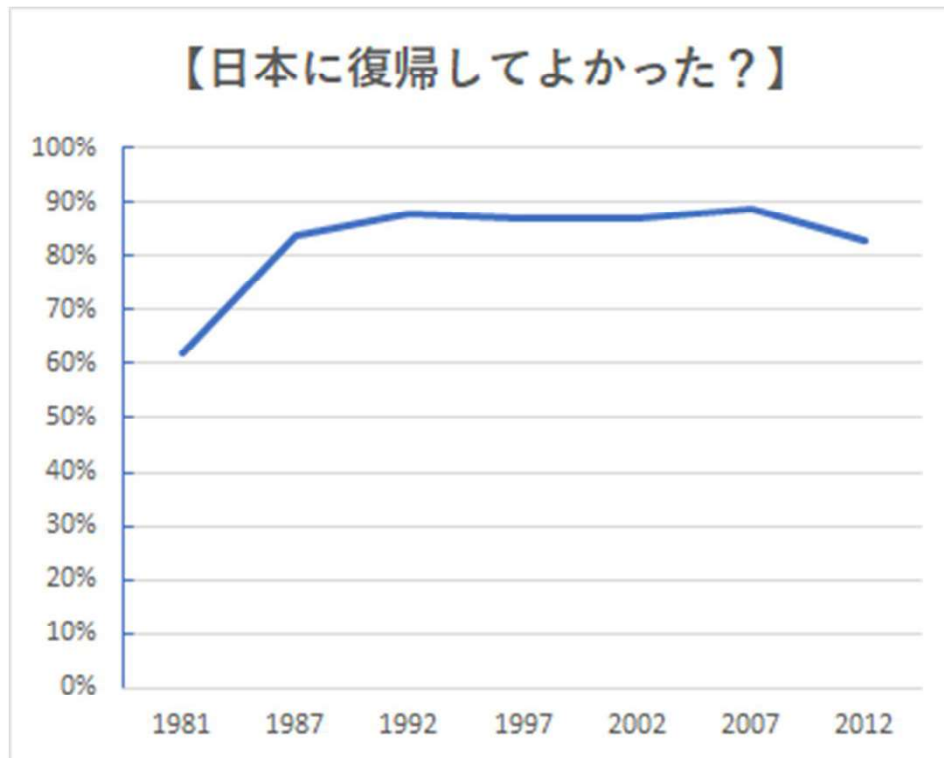
→ブレイクアウト（5分）

※出た意見をまとめて発表してくれる人を決めて

→発表（3分）



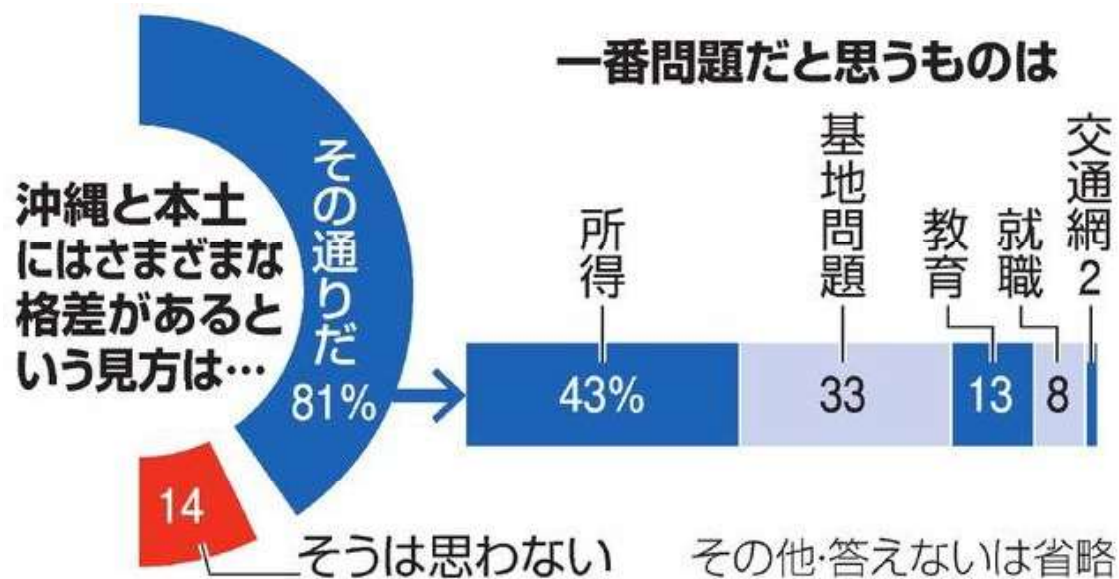
沖縄の人はどう思っているのか。



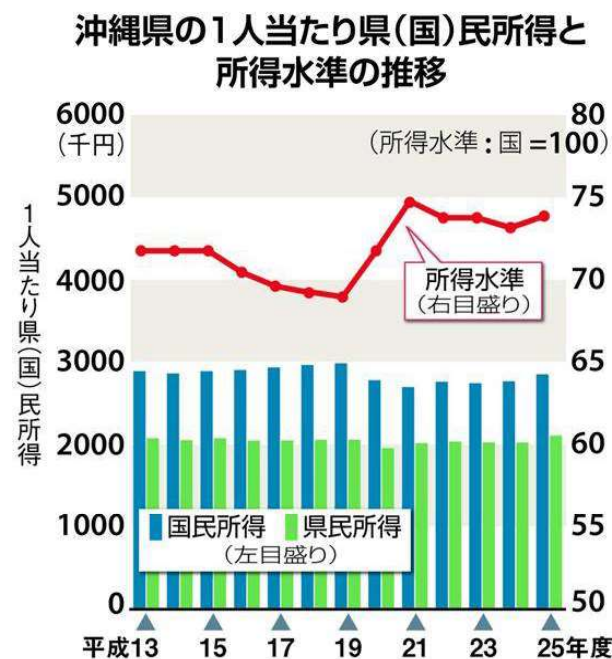
県民意識調査（出典：沖縄タイムス2017）



沖縄の人はどう思っているのか。



(出典：朝日新聞2017)



(出典：産経新聞2017)



KUDAN GLOBAL CLASS
KUDAN REGULAR CLASS

近現代

1872年：琉球藩設置←琉球王国を廃して

- 最後の国王：尚泰

1874年：台湾出兵←琉球漁民殺害事件

1879年：沖縄県設置←琉球藩を廃して

- 「旧慣温存」策をとり、従来の人頭税を残す。



近現代（沖縄での自由民権運動の展開）

土地整理事業（地租改正）などで近代化を進めるも、本土との差は歴然。

謝花昇らによって沖縄俱樂部ができると、参政権を求めて自由民権運動を行うも、弾圧される。



なぜ、多くの沖縄県民が海を渡ったのか？

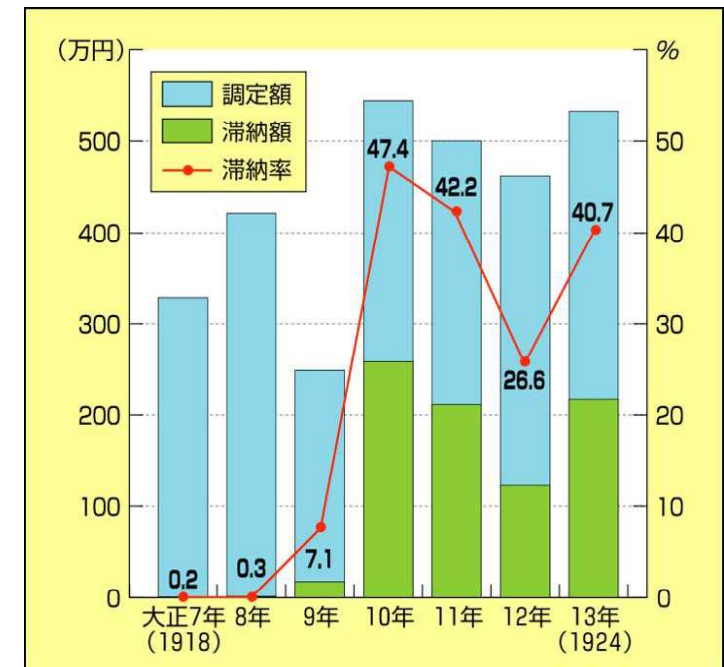
1908年：ブラジル移民の開始
約800人の日本人が、笠戸丸に
乗ってブラジルに渡った。

※その内の約330人が沖縄県出身



なぜ、多くの沖縄県民が海を渡ったのか？

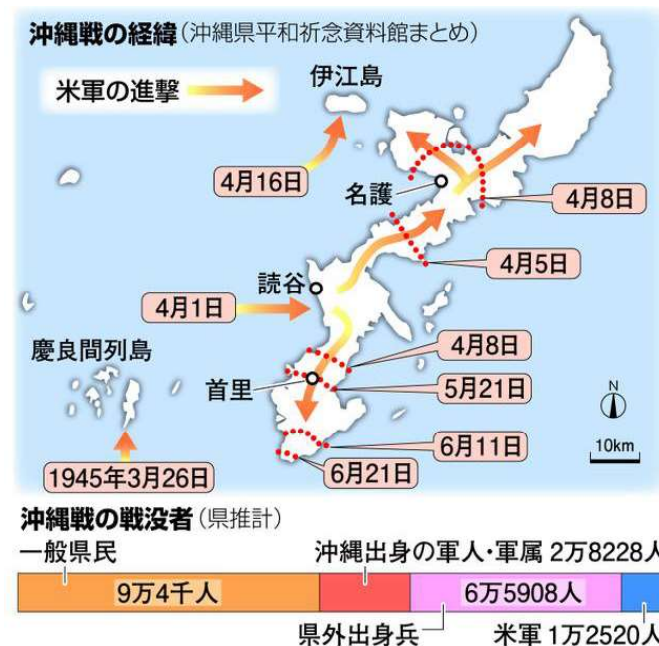
1920年：戦後恐慌の影響
ソテツ地獄



「沖縄県史3」をもとに作成



沖縄戦の悲劇（1945.4～6）



沖縄県民かく戦えり。願わくば後
世、格別のご高配あらんことを！

**修学旅行の事前学習で学んだことは何？
その時あなたが感じたことは？**



Jamboardにあなたの考えたことを貼って いって！

付箋をつ
くれます



戦後の沖縄（1945～1971）

1951年：サンフランシスコ講和条約
※沖縄・小笠原以外主権回復

高度経済成長している本土より
経済的に大幅な遅れをとっていた

1945～52
米軍の直接統治

1952～71
米政府の間接統治
琉球政府

- 1954～64年：ボリビアへの移住
- 1955年：嘉手納少女強姦殺人事件
など、さまざまな米軍による犯罪が起こった。
- 1970年12月20日：コザ騒動
沖縄県民の不満が爆発して米軍と衝突が起こる。



あの日の沖縄

1945年（昭和20）の米軍上陸以降、沖縄では広大な土地が米軍用地として接收され、農地や宅地を失った住民の生活は困難をきわめました。加えて急激な人口増加がさまざまな社会問題をもたらし、沖縄群島政府は「沖縄の経済的自立の要因は過剰人口の対策がその基盤となる」との認識から、海外移民を推進する方針を固めました。



沖縄県公文書館HPより



神奈川県横浜市鶴見区にあるお店です



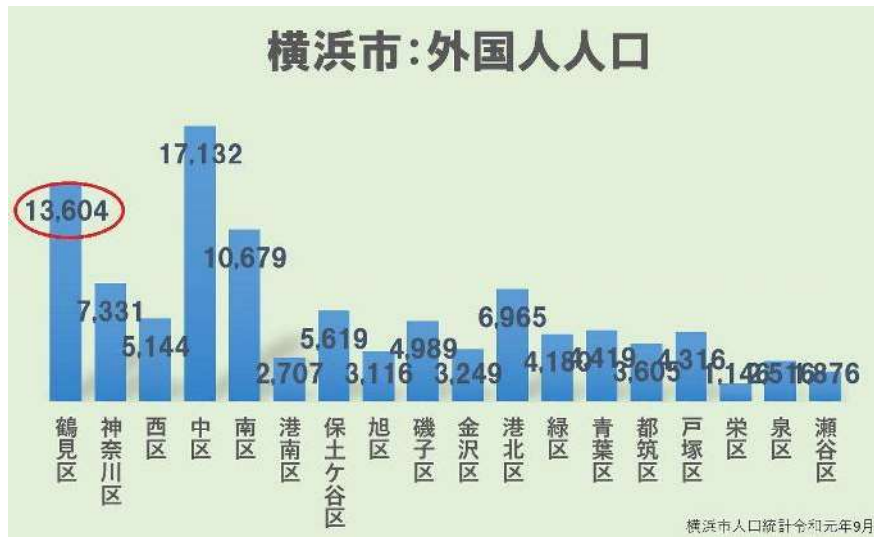
KUDAN GLOBAL CLASS
KUDAN REGULAR CLASS

Jamboardにあなたの考えたことを貼って いって！

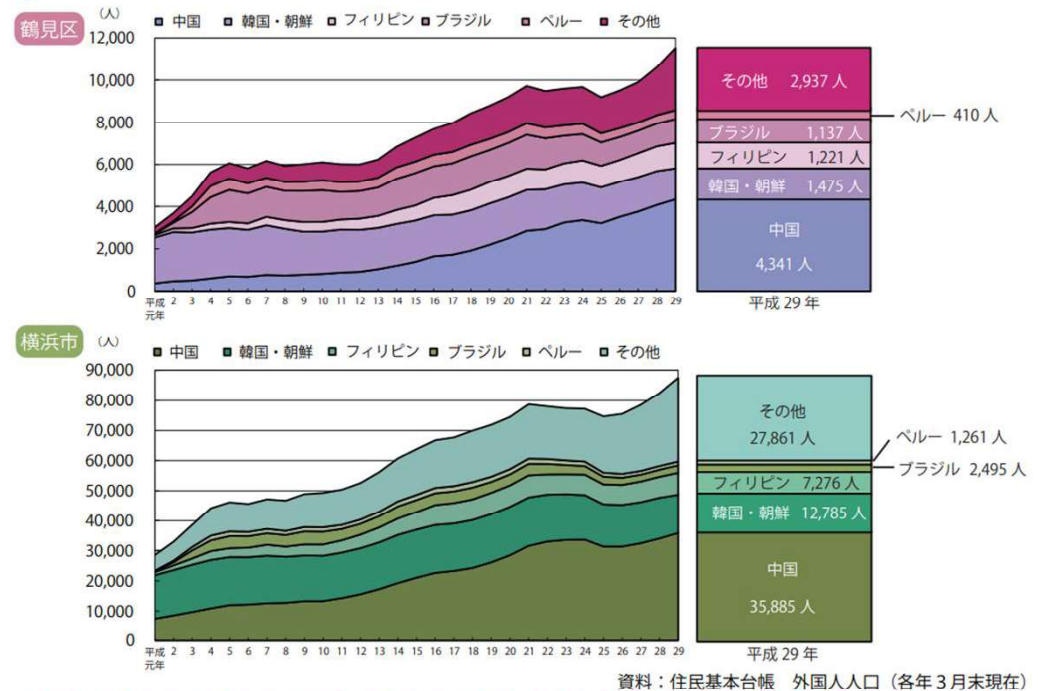
付箋をつ
くれます



鶴見区はブラジル人の割合が高い！



国籍別外国人住民数の推移



• NPO法人 ABCジャパン

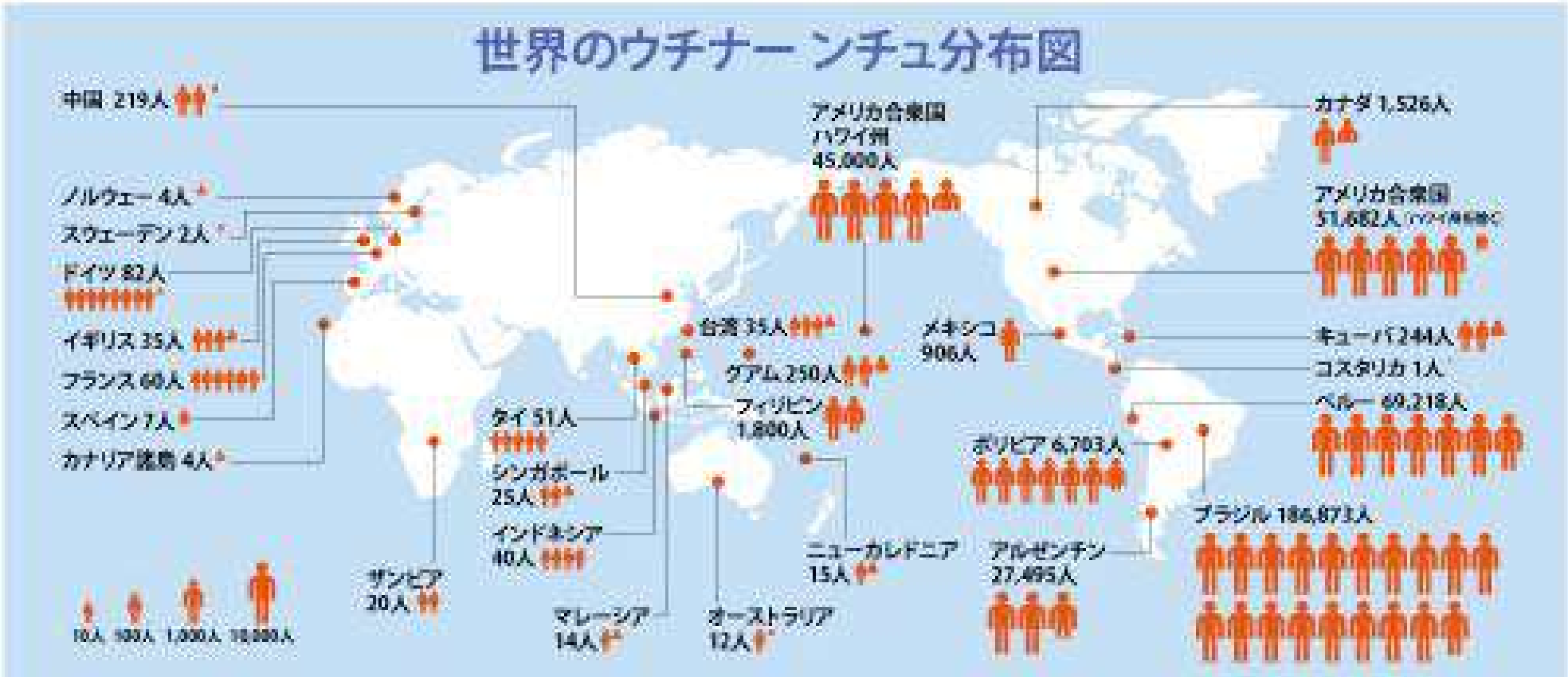
→定住外国人の自立・子どもの教育保障・多文化共生
こころのサポートと次世代の育成

• 外国人児童生徒保護者交流会（IAPE）

→毎夏に行っている「沖縄ヘルーツを探る旅」では、参加者の多くが
ながりのある地、沖縄を訪れ、親戚訪問や自然・歴史学習を通し
て仲間をつくり、自分を見つめる機会を作っている。



世界のウチナンチュ大会



推計値（出典：沖縄県交流推進課）



多文化共生の進む日本

日本は世界で第4位 [主な国への移民らの数]

(2018年、3カ月以上滞在予定者、
OECD 外国人移住者統計)

		人
1	ドイツ	1,383,580
2	米国	1,096,611
3	スペイン	559,998
4	日本	519,683
5	韓国	495,079
6	英国	486,452
7	トルコ	466,890
8	チリ	339,350
9	カナダ	321,045
10	イタリア	285,500

出典：朝日新聞GLOBE+より



明日までの宿題

- ・ あなたにとって
「日本とは？また、日本人とは？」

今日学んだことと、
次の2つの資料も参考にして、考えて
きてください。

☆できれば、この授業の題名？タイトルも考えてきて！



2つの資料とは！

- UNESCO憲章の前文を読んできて！
Classiで資料を配信します。
※ただし、英文です。

- HOMEという動画を見てきて！
※URLは貼り付けます。

☆できれば、この授業の題名？タイトルも考えてきて！

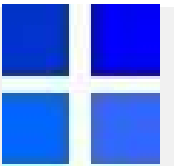




日本史B 琉球・沖縄史③

あなたにとって「日本とは？日本人とは？」

ルーツ・アイデンティティをどうとらえるか？



あなたにとって「日本とは？日本人とは？」という問いに関してあなたが考えるポイントになったことは何？Jamboardに！

付箋をつくれます



3人で一緒にピザを食べます。



価値観の違い

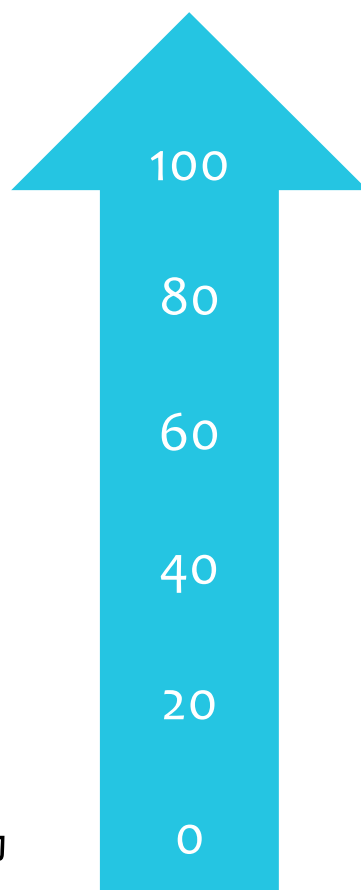
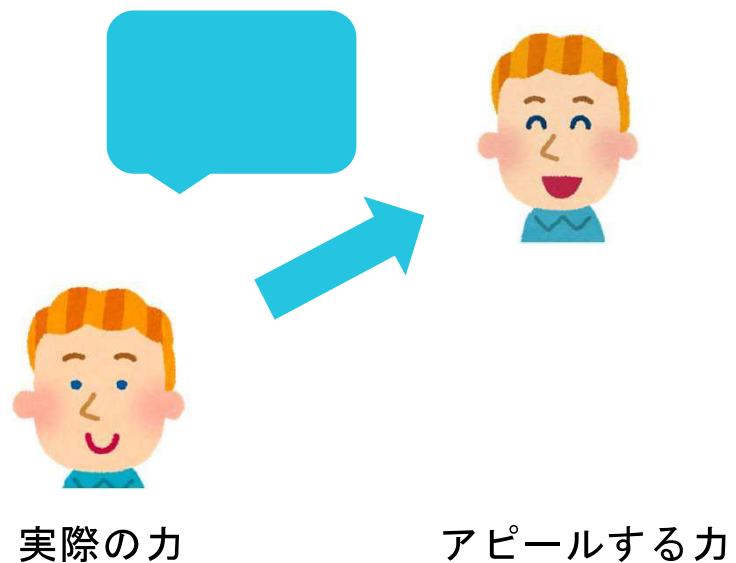
日本の価値観が必ずしも世界の常識とは限らない

これまで「自分の価値観」だと思っていたことが、実は自ら選んだのではなく、単に生きてきた環境の価値観をそのまま受け入れていただけ！

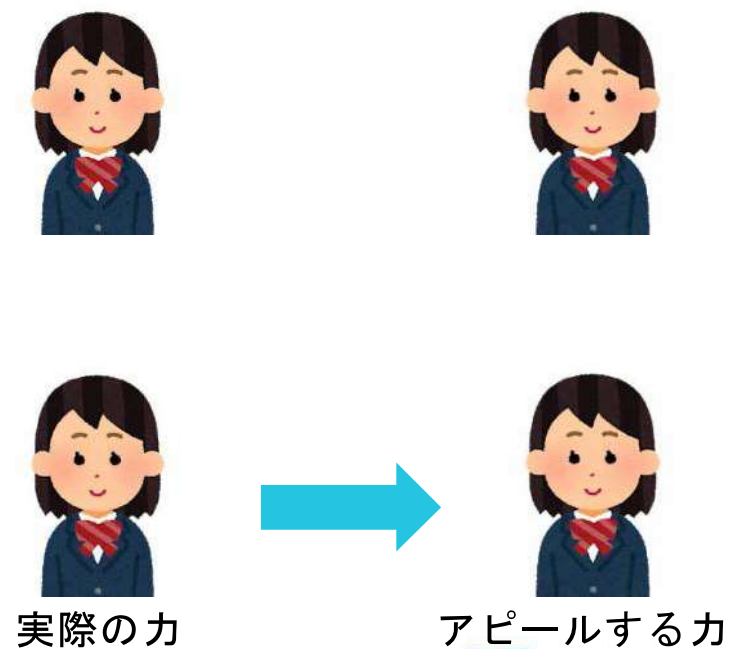


等身大の自分

ある国のスタイル



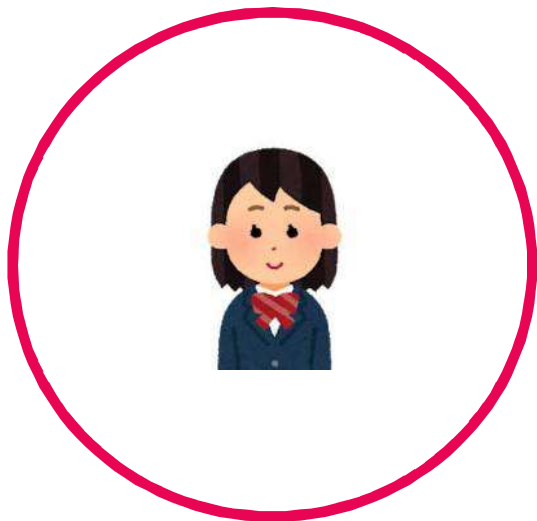
君たちのスタイル



社会での位置

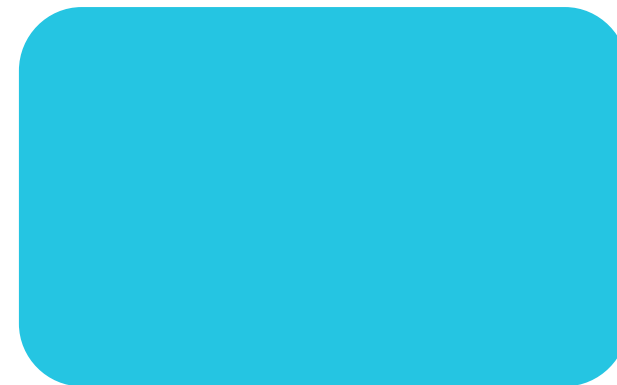
日本

(あなたを知っている
コミュニティー)



他国

(あなたを知らないコミュニティー)



文化の違いだけでなく立場の違いも



日本の歴史を学ぶことの意義

Constitution of the United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization

Adopted in London on 16 November 1945 and amended by the General Conference at its 2nd, 3rd, 4th, 5th, 6th, 7th, 8th, 9th, 10th, 12th, 15th, 17th, 19th, 20th, 21st, 24th, 25th, 26th, 27th, 28th, 29th and 31st sessions.

The Governments of the States Parties to this Constitution on behalf of their peoples declare:

- That since wars begin in the minds of men, it is in the minds of men that the defences of peace must be constructed;
- That ignorance of each other's ways and lives has been a common cause, throughout the history of mankind, of that suspicion and mistrust between the peoples of the world through which their differences have all too often broken into war;
- That the great and terrible war which has now ended was a war made possible by the denial of the democratic principles of the dignity, equality and mutual respect of men, and by the propagation, in their place, through ignorance and prejudice, of the doctrine of the inequality of men and races;
- That the wide diffusion of culture, and the education of humanity for justice and liberty and peace are indispensable to the dignity of man and constitute a sacred duty which all the nations must fulfil in a spirit of mutual assistance and concern;
- That a peace based exclusively upon the political and economic arrangements of governments would not be a peace which could secure the unanimous, lasting and sincere support of the peoples of the world, and that the peace must there-



日本史 B(琉球・沖縄史) 年 月 日

年 組 番 氏名

原始・古代

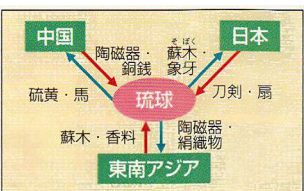
- 1. 旧石器文化…新人段階の化石人骨である[1]人骨（1968）の発見。
- 2. [2]文化（1 1 世紀頃まで）…弥生時代に沖縄を含む南島で展開された貝類などの食料採集を行う独特の文化。農業の開始は8～9 世紀→1 1 世紀には米や麦などを栽培。
- 3. 沖縄の歴史史料への登場…『唐大和上東征伝』（淡海三船著）→「阿児奈波」と表記。
※『長門本平家物語』が最初に「おきなわ」と表記。「沖縄」と表記した初例は新井白石の『南島志』である。
- 4. グスク時代（1 2～1 5 世紀）…領主を按司、居城はグスクと呼ぶ。
※沖縄に仏教が伝来したのは1 3 世紀後期で英祖王の時代。→察度が新たに王統を開く。
集落の首長：根人→按司に成長。

中世

- 5. 三山（中山・北山・南山）時代…中山王の察度、初めて明に入貢（1372）。
- 6. 琉球王国（1429）…中山王の[3]が三山を統一。
 - a.第1 尚氏王朝（1429～1470）…王府：首里、港：那覇。中継貿易により繁栄。
 - b.第2 尚氏王朝（1470～1879）…尚円（内間金丸）により成立。
 - ・尚真王…第2 尚王朝3 代目の王。中国との貿易を活発にし、奄美諸島から八重山群島まで王国の領域を広げた。
- ・古代歌謡「[4]」の編纂開始。→16 世紀半ばから編纂が始まり、1623 年に全22 巻が完成。
※万国の津梁…万国をつなぐたよりを意味し、中継貿易で栄えた琉球を象徴する言葉。首里城の正殿の鐘にこの文字の銘文が鑄込まれている。→万国津梁之鐘

※琉球の中継貿易が成立した理由

- ① 周辺諸国が鎖国政策をとっていた。
- ② 倭寇の影響のない安全な港をもっていた。
- ③ 周辺諸国との友好関係を維持していた。

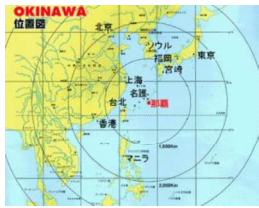


近世

- 7. 江戸時代の琉球
 - a.島津家久による琉球侵攻（1609）…国王[5]を捕らえる。→与論島以北が薩摩領となる。
 - b.琉球はその後明に朝貢を継続（冊封関係）→後に琉球帰属問題に発展。
 - c.使節の来日…[6]（将軍交代毎）、[7]（琉球王即位）を江戸に派遣。
 - d.[8]来航（1853）…浦賀来航の2 ヶ月前。→琉米修好条約（1854）

近現代

- 8. 琉球処分…明治政府の沖縄支配
 - a.日清修好条規（1871）…日清両属の沖縄帰属問題で対立。
 - b.琉球藩設置（1872）…琉球王国を廃して設置。国王[9]を藩王とし、華族に列した。
 - c.[10]（1874）…琉球漁民殺害事件（1871）の報復として。
 - d.沖縄県設置（1879）…琉球藩を廃して設置。→旧来の人頭税（～1903）を残すなど「旧慣温存」策をとったため、人頭税廃止運動が起こった。
- 9. 自由民権運動…[11]らが沖縄俱樂部を結成（1899）し、県政糾弾・参政権獲得運動（1912 年に参議院議員選挙実施）を進めた。←沖縄県知事奈良原繁により弾圧。
※ブラジル移民…沖縄は飢饉の時に、ソテツの実しか食べるものがない（ソテツ地獄）という貧困から、沖縄移民が多くなった。
- 10. 米軍の沖縄上陸（1945）…[12]（男子中等学校生徒）・ひめゆり隊（女子学生）の戦死、集団自決→日本守備隊玉碎（6 月23 日）
- 11. サンフランシスコ平和条約（1951）…アメリカの沖縄統治承認。→琉球政府。
※土地収用令（1953）…アメリカ軍が発した強制的な土地使用法。
- 12. 沖縄の祖国復帰（1972）…「核ぬき、本土なみ」
 - a.沖縄県祖国復帰協議会設置（1960）→琉球政府主席を公選し、「即時・無条件・祖国復帰」を公約に掲げた屋良朝 苗 が当選（1968）
 - b.日米共同声明（1969）…佐藤栄作・ニクソン会談で沖縄返還合意。
 - c.沖縄返還協定（1971）…アメリカは施政権を日本に返還したが、軍事基地は改めて使用権を得たので、沖縄県民は強く反発した。



沖縄の位置
沖縄本島から半径2000 キロ圏内に、東京・ソウル・北京・マニラなど、東アジアの主要都市が含まれる。



謝花昇（1865～1908）
「沖縄民権運動の父」。「帝王」奈良原知事に立ち向かい、県庁を辞任。「沖縄俱樂部」を設立、沖縄の参政権運動に尽力する。

1	2	3
4	5	6
7	8	9
10	11	12

日本史 B(琉球・沖縄史) 年 月 日

年 組 番 氏名

原始・古代

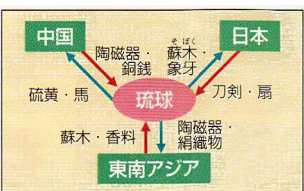
- 1. 旧石器文化…新人段階の化石人骨である[1]人骨（1968）の発見。
- 2. [2]文化（1 1 世紀頃まで）…弥生時代に沖縄を含む南島で展開された貝類などの食料採集を行う独特の文化。農業の開始は8～9 世紀→1 1 世紀には米や麦などを栽培。
- 3. 沖縄の歴史史料への登場…『唐大和上東征伝』（淡海三船著）→「阿児奈波」と表記。
※『長門本平家物語』が最初に「おきなわ」と表記。「沖縄」と表記した初例は新井白石の『南島志』である。
- 4. グスク時代（1 2～1 5 世紀）…領主を按司、居城はグスクと呼ぶ。
※沖縄に仏教が伝来したのは1 3 世紀後期で英祖王の時代。→察度が新たに王統を開く。
集落の首長：根人→按司に成長。

中世

- 5. 三山（中山・北山・南山）時代…中山王の察度、初めて明に入貢（1372）。
 - 6. 琉球王国（1429）…中山王の[3]が三山を統一。
 - a.第1 尚氏王朝（1429～1470）…王府：首里、港：那覇。中継貿易により繁栄。
 - b.第2 尚氏王朝（1470～1879）…尚円（内間金丸）により成立。
 - ・尚真王…第2 尚王朝3 代目の王。中国との貿易を活発にし、奄美諸島から八重山群島まで王国の領域を広げた。
 - ・古代歌謡「[4]」の編纂開始。→16 世紀半ばから編纂が始まり、1623 年に全 22 巻が完成。
- ※万国の津梁…万国をつなぐたよりを意味し、中継貿易で栄えた琉球を象徴する言葉。首里城の正殿の鐘にこの文字の銘文が鑄込まれている。→万国津梁之鐘

※琉球の中継貿易が成立した理由

- ① 周辺諸国が鎖国政策をとっていた。
- ② 倭寇の影響のない安全な港をもっていた。
- ③ 周辺諸国との友好関係を維持していた。

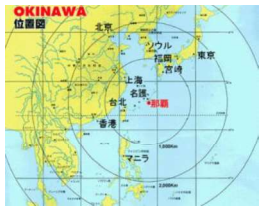


近世

- 7. 江戸時代の琉球
 - a.島津家久による琉球侵攻（1609）…国王[5]を捕らえる。→与論島以北が薩摩領となる。
 - b.琉球はその後明に朝貢を継続（冊封関係）→後に琉球帰属問題に発展。
 - c.使節の来日…[6]（将軍交代毎）、[7]（琉球王即位）を江戸に派遣。
 - d.[8]来航（1853）…浦賀来航の2 ヶ月前。→琉米修好条約（1854）

近現代

- 8. 琉球処分…明治政府の沖縄支配
 - a.日清修好条規（1871）…日清両属の沖縄帰属問題で対立。
 - b.琉球藩設置（1872）…琉球王国を廃して設置。国王[9]を藩王とし、華族に列した。
 - c.[10]（1874）…琉球漁民殺害事件（1871）の報復として。
 - d.沖縄県設置（1879）…琉球藩を廃して設置。→旧来の人頭税（～1903）を残すなど「旧慣温存」策をとったため、人頭税廃止運動が起こった。
- 9. 自由民権運動…[11]らが沖縄俱樂部を結成（1899）し、県政糾弾・参政権獲得運動（1912 年に参議院議員選挙実施）を進めた。←沖縄県知事奈良原繁により弾圧。
※ブラジル移民…沖縄は飢饉の時に、ソテツの実しか食べるものがない（ソテツ地獄）という貧困から、沖縄移民が多くなった。
- 10. 米軍の沖縄上陸（1945）…[12]（男子中等学校生徒）・ひめゆり隊（女子学生）の戦死、集団自決→日本守備隊玉砕（6 月 23 日）
- 11. サンフランシスコ平和条約（1951）…アメリカの沖縄統治承認。→琉球政府。
※土地収用令（1953）…アメリカ軍が発した強制的な土地使用法。
- 12. 沖縄の祖国復帰（1972）…「核ぬき、本土なみ」
 - a.沖縄県祖国復帰協議会設置（1960）→琉球政府主席を公選し、「即時・無条件・祖国復帰」を公約に掲げた屋良朝 苗 が当選（1968）
 - b.日米共同声明（1969）…佐藤栄作・ニクソン会談で沖縄返還合意。
 - c.沖縄返還協定（1971）…アメリカは施政権を日本に返還したが、軍事基地は改めて使用権を得たので、沖縄県民は強く反発した。



沖縄の位置
沖縄本島から半径2000 キロ圏内に、東京・ソウル・北京・マニラなど、東アジアの主要都市が含まれる。



謝花昇（1865～1908）
「沖縄民権運動の父」。「帝王」奈良原知事に立ち向かい、県庁を辞任。「沖縄俱樂部」を設立、沖縄の参政権運動に尽力する。

1	港川	2	貝塚	3	尚巴志
4	おもろそうし	5	尚寧	6	慶賀使
7	謝恩使	8	ペリー	9	尚泰
10	台湾出兵	11	謝花昇	12	鉄血勤皇隊

海外移住とは何か ー日系人から学ぶー

海外移住の歴史的意義は何か？ 移民または移住者と聞くと、出稼ぎや棄民（きみん）といった言葉を思い浮かべる方もいるかもしれませんが。暗いイメージと重なることもあります。しかし、そうした方々が果たしてきた歴史的意義を考えると、そこには重要な世界史的意味を見い出すことができます。

アメリカ大陸という新世界に渡り、新しい土地で新文明の建設に参加した日本人。新文明建設に積極的に寄与した日系人は、現地社会への貢献を果たした国際交流のパイオニアでもあります。

日系人とは、海外へ移住した日本人とその子孫の方々を指し、現在ではその数も 300 万人を超えると推定されています。すでに六世も誕生し、混血化が進んでいます。日系人の中には、日系であることを強く自覚し、先祖から受け継いだ文化遺産を次世代へと伝えるべく、不断の努力を重ねている人たちがいます。現在、外国人を受け入れる立場にある日本の私たちも、日系人の歴史や経験から、異文化を受け入れ共に生きる、その知恵や術を学ぶことができるのです。



パンアメリカン日系人大会（COPANI）2005 年



日系人の貢献を顕彰した壁画
クリチーバ市営市場 ブラジル

海外移住の歴史 第二次大戦まで

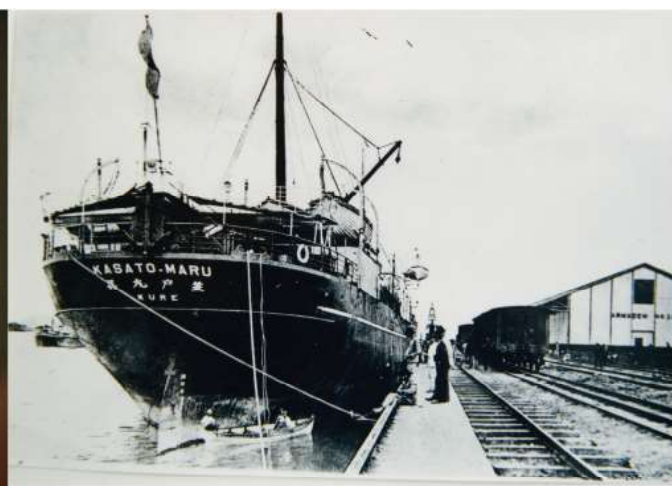
日本人の海外渡航は、遠く明治維新以前にさかのぼります。1866 年、御免の印章という今日の旅券に相当する許可証の発行が、その端緒となりました。続いて、ハワイのサトウキビ耕地での労働に、1885 年から 1894 年の 10 年間に、約 2 万 9 千人が渡りました。官約（かんやく）移民と呼ばれました。1898 年ハワイがアメリカに併合されると、カリフォルニアを始めとした西海岸へも移民が渡ります。1920 年までに写真花嫁と呼ばれた女性移民も 2 万人ほど渡りました。

1908 年にはブラジルへの移住が始まり、コーヒー農場の雇用契約農として仕事に就きました。家族労働がその条件でした。1924 年、排日移民法がアメリカで通過すると、移民の流れが、北米から南米へと変わります。

そして第二次世界大戦が勃発すると、アメリカやカナダでは二世を含む日系人の強制立退き・収容が行われ、日系人社会はたちまちにして崩壊します。南米においても、日本語学校が閉鎖され、日本語新聞も廃刊、日系人社会はたいへんな混乱状態に陥ります。



サトウキビ耕地の労働風景 海外移住資料館常設展示



サントス港に接岸した笠戸丸 1908 年 ブラジル

海外移住の歴史 第二次大戦以後

第二次大戦後、日本が敗戦したことから、戦前に渡った日本人移民はほとんどが移住先国に残り、そこで生きていくことになります。しかし、日本の敵対国であった移住先国では、日系人に対する偏見や差別は、簡単に消えません。そのような境遇にありながらも、日系人は日本国民に救援物資を送る運動を起こし、毛布や粉ミルクなど膨大な物資が横浜に到着しました。ララ物資（LARA）と呼ばれ、日本人の6人に1人がその恩恵を受けました。

1952年には、戦後移住が再開され、工業分野における移住も行われます。1973年には、船による移住が終わりを告げ、最後の移民船「にっぽん丸」が横浜から出航します。北米では、リドレスと呼ばれた戦時中の強制収容に対する賠償請求運動が起こり、1988年に補償法が成立します。こうして日系人はそれぞれ移住先国の一員として社会的地位を固めていき、移住後数十年の節目に周年記念祭を実施するようになります。現在では、アメリカ大陸をまたがる日系人同士の交流も盛んに行われ、日系人としてのアイデンティティの確立に寄与しています。



ララ物資記念碑 横浜港



最後の移民船 にっぽん丸の出航 1973年

日系人の生活とコミュニティ

初期移民は、アメリカではブランケ担ぎと呼ばれた移動農業労働者、ブラジルではコロノと呼ばれたコーヒー農場の雇用農業労働者として働きました。さらにペルーでは理髪店、アルゼンチンではクリーニング店など、日系人に典型的な職業がありました。カナダではサケ漁に従事する和歌山県出身移民がおおぜいいました。

とくに農業分野において、日本人移民は各国で顕著な貢献を果たし、品種改良や新品種の導入により、現地の食生活を豊かにしました。家庭では日本の習慣を大切にするとともに、日本人会が作られ、日本語学校を設立し、日本人としての教育を子孫に伝えようと努めました。県人会や婦人会の活動も活発に行われます。日本語新聞も各地で発行され、互いに情報交換しました。

小作農生活から脱すると、自作農そして商工業分野へも進出していきます。二世が成長すると大学に進み、都市部で生活するようになります。「日本人町」や「日本人街」などと呼ばれる日本人集住地域も形成されていきます。



露店市の屋台 海外移住資料館常設展示



サンフランシスコの日本町

日系人の現在と多文化共生

国や地域によって事情は異なるものの、日系社会ではすでに六世が誕生し、三世中心の時代になりつつあります。日系人としての意識が薄れ、日系コミュニティからは距離を置く日系人も増えています。このような趨勢の中、日系人としてのアイデンティティや連帯を維持するための様々な取り組みがなされています。各地で、夏祭りや盆踊り、花祭りや七夕祭り、エイサーなどが行われ、日系人以外の人たちもたくさん参加するようになってきています。若い世代の中には、**nikkei** としての意識に目覚め、独自の文化を創造しようと活動する人たちも現れています。

その一方で、日本人移住百周年記念イベントなども行われ、日本人移民に対する高い評価が各国で再認識されています。

ブラジルやアメリカなどでは混血が進み、現在では日系人口の 30-40%が混血です。家族親戚の中に日本人の血統をもたない人が多数含まれており、それが当たり前になっています。血統による結び付きではなく、生活を共にし、価値を共有する者としてのニッケイ・ファミリーが生まれています。ニッケイ・ファミリーはまさに多文化共生を実現しているのです。



日本人ブラジル移住 100 周年記念式典



六世が誕生したビッグファミリー ハワイ
海外移住資料館常設展示

Constitution of the United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization

Adopted in London on 16 November 1945 and amended by the General Conference at its 2nd, 3rd, 4th, 5th, 6th, 7th, 8th, 9th, 10th, 12th, 15th, 17th, 19th, 20th, 21st, 24th, 25th, 26th, 27th, 28th, 29th and 31st sessions.

The Governments of the States Parties to this Constitution on behalf of their peoples declare:

That since wars begin in the minds of men, it is in the minds of men that the defences of peace must be constructed;

That ignorance of each other's ways and lives has been a common cause, throughout the history of mankind, of that suspicion and mistrust between the peoples of the world through which their differences have all too often broken into war;

That the great and terrible war which has now ended was a war made possible by the denial of the democratic principles of the dignity, equality and mutual respect of men, and by the propagation, in their place, through ignorance and prejudice, of the doctrine of the inequality of men and races;

That the wide diffusion of culture, and the education of humanity for justice and liberty and peace are indispensable to the dignity of man and constitute a sacred duty which all the nations must fulfil in a spirit of mutual assistance and concern;

That a peace based exclusively upon the political and economic arrangements of governments would not be a peace which could secure the unanimous, lasting and sincere support of the peoples of the world, and that the peace must therefore be founded, if it is not to fail, upon the intellectual and moral solidarity of mankind.

For these reasons, the States Parties to this Constitution, believing in full and equal opportunities for education for all, in the unrestricted pursuit of objective truth, and in the free exchange of ideas and knowledge, are agreed and determined to develop and to increase the means of communication between their peoples and to employ these means for the

purposes of mutual understanding and a truer and more perfect knowledge of each other's lives;

In consequence whereof they do hereby create the United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization for the purpose of advancing, through the educational and scientific and cultural relations of the peoples of the world, the objectives of international peace and of the common welfare of mankind for which the United Nations Organization was established and which its Charter proclaims.

Article I

Purposes and functions

1. The purpose of the Organization is to contribute to peace and security by promoting collaboration among the nations through education, science and culture in order to further universal respect for justice, for the rule of law and for the human rights and fundamental freedoms which are affirmed for the peoples of the world, without distinction of race, sex, language or religion, by the Charter of the United Nations.
2. To realize this purpose the Organization will:
 - (a) Collaborate in the work of advancing the mutual knowledge and understanding of peoples, through all means of mass communication and to that end recommend such international agreements as may be necessary to promote the free flow of ideas by word and image;
 - (b) Give fresh impulse to popular education and to the spread of culture:

By collaborating with Members, at their request, in the development of educational activities;

By instituting collaboration among the nations to advance the ideal of equality of educational opportunity without regard to race, sex or any distinctions, economic or social;

By suggesting educational methods best suited to prepare the children of the world for the responsibilities of freedom;
 - (c) Maintain, increase and diffuse knowledge:

By assuring the conservation and protection of the world's inheritance of books, works of art and monuments of history and science, and recommending to the nations concerned the necessary international conventions;

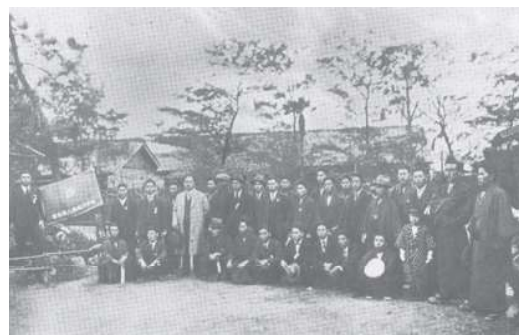
By encouraging cooperation among the nations in all branches of intellectual activity, including the international exchange of persons active in the fields of education, science and culture and the exchange of publications, objects of artistic and scientific interest and other materials of information;

8 多文化共生のまち

鶴見区は、市内2番目に外国人人口が多く、市全体に比べ南米出身者の構成比が大きいことや、沖縄にルーツを持つ人々が多いことが特徴であり、多様な文化が息づいています。

● 沖縄と鶴見

沖縄の県外・海外への移住は、明治30年代にさかのぼります。当時沖縄では、土地整理事業により土地を失った人々が県外・海外へ移住するようになりました。さらに大正9年以降、主要作物であった砂糖の価格暴落で経済が困窮を極め、移住に拍車がかかりました。ちょうど同じ頃、鶴見では埋立事業などにより労働力の需要が高まり、多くの沖縄出身の労働者が定住するようになりました。戦前戦後にかけても、同郷出身を頼った沖縄の人々が鶴見に移り住みました。



鶴見沖縄県人同志会（昭和2年設立）
（写真提供：横浜・鶴見沖縄県人会）

● 沖縄の伝統芸能

沖縄では、古くから集落毎に村芝居と称して豊年踊りが催されていました。鶴見の沖縄コミュニティでも、催し事の際には、沖縄伝統の演劇や歌劇、舞踊が披露されていましたが、戦争で途絶えてしまいました。

終戦後、横浜・鶴見沖縄県人会のメンバーなどの奮闘により、沖縄芸能の公演やイベントが積極的に行われるようになりました。



鶴見沖縄県人会公演（昭和31年）
組踊り『伏山敵討』より。
鶴見沖縄県人会会員が出演。



第一回おきつる芸能祭（平成26年）
沖縄芸能の継承と普及を目的として、民謡や琉舞を披露。

（写真提供：横浜・鶴見沖縄県人会）

● 南米と鶴見

鶴見区に南米出身者が多く移住するようになったきっかけは、平成2年の入国管理法改正です。バブル経済期の製造業などの人手不足を背景に、日系人が就労可能となる在留資格が創設され、南米を中心とした国々から多くの日系人が日本に移住しました。かつて沖縄から南米に移住した人々やその子孫である日系人の中には、沖縄出身者を頼って鶴見区に移住した人々が多くいました。こうしたことから鶴見区は南米にルーツを持つ人々が多く住むようになりました。

● 多文化共生の歩み

海外からの移住者が急増したことを受け、地域の人々による日本語教室の運営や相談対応等の支援が行われるようになりました。近年は文化交流のイベント等も開催されるようになり、相互理解に基づく多文化共生の取組が進められています。



ブラジルの伝統的な祭り「フェスタジュニーナ（6月の祭）」（会場：潮田小学校／平成16年）

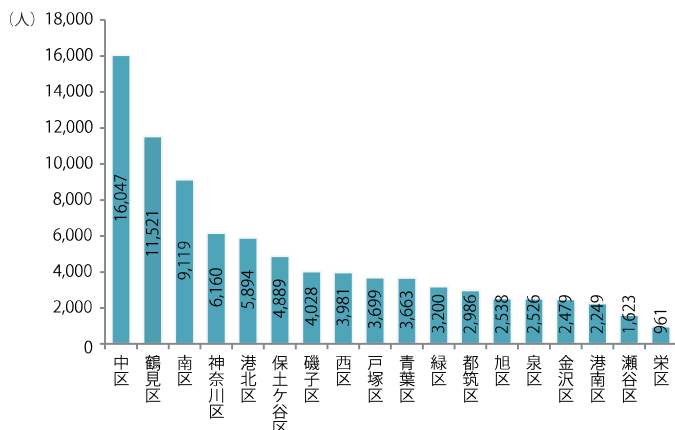


鶴見区在住の外国人を対象とした
NPO法人ABCジャパン主催の日本語教室（平成22年）

（写真提供：安富祖美智江様）

3 外国人住民

● 区別外国人住民



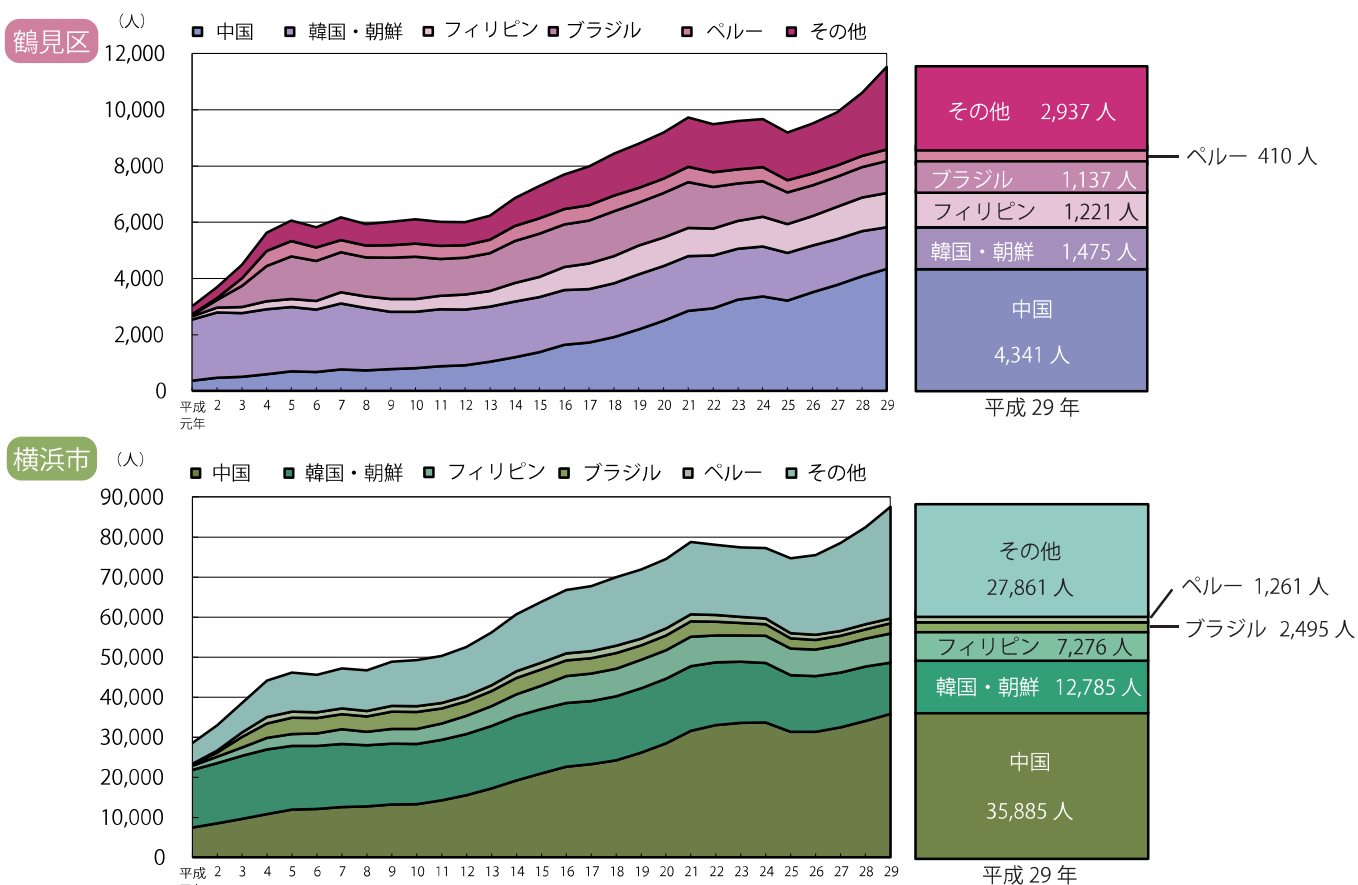
資料：住民基本台帳 外国人人口（平成 29 年 3 月 31 日現在）

平成 29 年 3 月 31 日現在の鶴見区の外国人住民数は 11,521 人です。（前年より 920 人増加）これは中区に続いて市内 2 番目の多さとなっています。国籍別にみると、中国、韓国・朝鮮、フィリピン、ブラジルの順に多くなっています。横浜市全体と比べると、鶴見区はブラジルやペルー国籍の構成比が大きいことが分かります。

鶴見区は、外国人児童数（※）が 310 人で、南区に次いで二番目に多いよ！
※ 市立小学校に通う外国人児童の数
資料：横浜市教育委員会「市立学校現況」（平成 28 年 5 月 1 日現在）



● 国籍別外国人住民数の推移



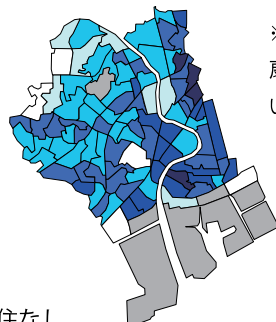
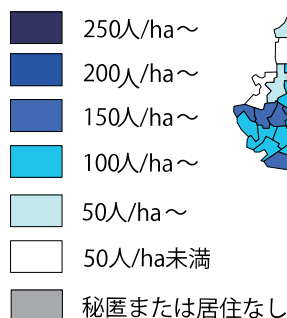
資料：住民基本台帳 外国人人口（各年 3 月末現在）



地図で見る鶴見 ～人口密度～

鶴見区内で人口密度の高い町は、尻手一丁目・三丁目、本町通、市場上町などです。また、鶴見駅周辺と、川崎市との市境の人口密度が高い傾向にあります。

資料：住民基本台帳（平成 29 年 3 月 31 日現在）



※大黒ふ頭・扇島は省略しています。